

第25回（2009年度）マツダ財団支援

市民活動概要



財団法人 マツダ財団

設 立 趣 意 書

我が国経済はめざましい成長を遂げ、今日多くの国民が、日常生活の中で豊かさを享受しております。

これには、科学技術の発展にあずかるところが大きく、産業界も厳しい環境を克服し、高度の技術革新をすすめることでその一翼を担ってきました。換言すれば、天然資源に恵まれない我が国は、人びとの英知と勤勉さを資源として科学技術の振興を図ることによって、国際社会に伍し、社会経済の発展を成し遂げてきたといえます。このことは、未来社会においても同様であると考えます。

一方、急速な経済成長は、国の内外における様々な分野で新しい課題を提起してきました。工業化社会、さらには情報化社会の進展による社会環境の変化が、青少年の社会生活に多様な影響を及ぼしていることもその一つであります。物質的な豊かさが精神的な豊かさをもたらさず、むしろ青少年の心の荒廃を加速しているのではないかと指摘されています。心身共に発達形成期にある青少年の育成に、今まさに適切な施策や方途を講ずることが望まれる所以であります。

人びとが共に繁栄を分かち合い、心豊かに生きることのできる社会の実現を願うとき、調和のとれた科学技術の発展と、将来これらを担うべき青少年の健全育成とが相まって達成されていくことが大切と考えます。

マツダ株式会社は、新しい価値を創造し、人びとの喜びをひろげていくことを経営理念として社業に精励しておりますが、このほど実施した社名変更を記念し、併せて創立65周年を来年に控えたこの時期に、経営理念の一端を具現することを願って、科学技術の振興と青少年の健全育成のための助成等を主な事業内容とするマツダ財団を設立し、広く社会の発展に役立てようとするものであります。この財団の趣旨が我が国だけでなく、国際的なひろがりの中で活かされれば、これに過ぎる喜びはないと考える次第であります。

1984年10月

目的及び事業

目的：本財団は、科学技術の振興並びに次代を担う青少年の健全育成のための助成等を行い、もって世界の人びとが共に繁栄を享受し、心豊かに生きることのできる社会づくりに寄与することを目的とする。

事業：本財団は、この目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 科学技術の振興に寄与する研究に対する助成
- (2) 科学技術の振興に寄与する研究及び開発に優れた業績のあった者に対する顕彰
- (3) 青少年の健全育成に寄与する研究並びに諸事業に対する助成
- (4) 青少年の健全育成に寄与する優れた業績のあった者に対する顕彰
- (5) 科学技術の振興及び青少年の健全育成に関する調査研究並びに講演会、シンポジウム等の開催
- (6) 外国人留学生の研修、研究、交流等に対する助成
- (7) その他本財団の目的達成に必要な事業

マツダ財団は

科学技術の振興
青少年の健全育成

分野の社会貢献を行っています。

科学技術の振興

○研究助成

現在並びに将来にわたって解決が求められている、科学技術に関する基礎研究及び応用研究に対する助成。「若手研究者」、「萌芽的研究」、「循環・省資源への寄与」を優先して助成。対象は、全国の大学及び研究機関。

(累計件数 634件 累計金額 8億8650万円)

○科学わくわくプロジェクト

青少年の科学離れへの対応として、小中学生や高校生を対象に科学にわくわくする機会を提供し、「科学するところ」を養うことを目指した事業。
広島大学との連携で、同大学の知的資源を活用した地域貢献プログラムとして実施。

○事業助成

中国地方で開催される小中高の生徒を対象とした「科学体験」に関する研究会等に対する助成。対象は、中国地方の大学及び研究機関。

(累計件数 232件 累計金額 2,446万円)



青少年の健全育成

○研究助成

次代を担う青少年の健全育成に寄与する研究に対する助成。市民活動との連携強化を図り、市民活動活性化に寄与する実践的な研究に注力。対象は、全国の大学及び研究機関。

(累計件数 149件 累計金額 1億5648万円)

○市民活動支援

次代を担う青少年の心豊かな成長の一助となる、地域に密着した活動に対する、資金・人材・ノウハウにわたる総合支援。対象は広島県及び山口県の青少年関係の民間諸団体。

(累計件数 447件 累計金額 1億4060万円)

○感動塾・みちくさ

児童・生徒、指導者、ボランティアの創意工夫を育む「感動塾・みちくさ」を開催。(財)広島市ひと・まちネットワークとの共催。

○大学講義

広島地区の大学を対象に開催。2010年度は、県立広島大学にて「単位互換 ボランティア活動」を実施。

○講演会

本財団の活動主旨を広く皆様に知っていただく活動の一つとして開催。

- 2005年度 宮尾登美子氏 「義経と生きた女性たち」
- 2006年度 藤原正彦氏 「21世紀を担う子どもたち」
- 2007年度 柳田邦男氏 「大人が変われば子どもも変わる～いま、絵本のカ～」
- 2008年度 鎌田 實氏 「生きているってすばらしい～幸せの探し方～」
- 2009年度 茂木健一郎氏 「脳を育てる習慣」

(数値は2010年7月1日現在)

名 称： 財団法人マツダ財団
設 立： 1984年10月26日
主 務 官 庁： 文部科学省
基 本 財 産： 10億円
目 的： 科学技術の振興並びに次代を担う青少年の健全育成のための助成等を行い、もって世界の人が共に
繁栄を享受し、心豊かに生きることのできる社会づくりに寄与することを目的とする。
事 業 内 容： 上記のとおり
住 所： 広島県安芸郡府中町新地3番1号 マツダ株式会社内 〒730-8670
電 話 番 号： (082)285-4611
ファックス： (082)285-4612
E-mailアドレス： mzaidan@mazda.co.jp
ホームページ： http://mzaidan.mazda.co.jp/

マツダ財団 第25回市民活動支援一覧 —青少年健全育成—

活動名	団体名	ページ
犯罪被害防止教室開催	広島県福山北警察署管内 少年補導協助力連絡協議会	1
こどもの広場	こどもの広場実行委員会	3
東区障害児のためのサマースクール	東区障害児のためのサマースクール	5
文化伝承邦楽「箏」の伝承指導	邦楽グループ 城友会	7
夢山コンサート～羽和泉 竹の楽団～	羽和泉みどりの少年団	9
学童工作教室の新展開と環境美化及び、 地域資源を活かしたふれあいイベントによる地域社会の絆づくり	晴海町・青社会	11
小学生が楽しく実習して理科好きになる 「地域と大学とのコラボによる竹炭・竹酢液・竹塩作り体験」	大道山竹炭工房	13
学生による各種環境教育活動	大学環境ネットワーク協議会	15
子供達に文化の継承とボランティア演奏	こども琴クラブ	17
ART PARTY	ART PARTY実行委員会	19
第12回猿猴川河童まつり	段原地区町づくり協議会 (猿猴川河童まつり実行委員会)	21
加計小夢配達人プロジェクト推進事業巨大万華鏡づくり	加計小夢配達人プロジェクト 安芸太田実行委員会	23
北広島町夢配達人プロジェクト推進事業(植物写真集作成)	北広島町夢配達人プロジェクト実行委員会	25
認知症予防の「脳と体の健康ルーム(NPO運営)」の展開と 若者サポーターの参加と育成プログラム	NPO法人うたしの会	27
障害児の余暇活動と支援	府中町手をつなぐ親の会	29
歌による子どもたちの表現活動の支援 子ども・子育て情報紙の発行による地域の中での子育てを支援	こどもステーション	31
都市ギャラリープロジェクト	広島市立大学都市ギャラリープロジェクトチーム	33
エコ工作教室	広島環境サポーターネットワーク	35
「蘇れ 母なる海 松永湾 パート3 みんなで考える環境保護」	環境市民ネットまつなが	37
田んぼの楽校	広島市ネイチャーゲームの会	39
西区ミニ障害児子どもまつり	こすもすの会	41
親子わくわく科学教室	特定非営利活動法人三次科学技術教育協会	43
第34回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会	第34回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会 実行委員会	45
友楽タイムおいでよわせだっ子	早稲田学区青少年健全育成連絡協議会	47
みて！みて！平和のでっかい絵	社団法人 広島青年会議所	49
地域のお宝大発表会 in 田町商店街	萩子ども情報センター協議会	51
非行少年の更生と福祉に関する諸活動	山口少年友の会	53
わくわく土曜塾	長門市中央公民館事業企画運営委員会 「わくわく土曜塾」担当	55
美祢市子連ジュニアリーダーズクラブ於福支部事業	美祢市子連ジュニアリーダーズクラブ於福支部	57
「療育に関する事業(キラキラ☆キッズ)」 「余暇支援及び生活支援に関する事業(キラキラ☆クラブ)」	NPO法人シンフォニーネット	59
わくわく科学SUMMERフェスティバル2009	岩国科学をたのしむ会	61
ホテルの夕べ	富海をホテルの里にする会	63
合計	32件 800万円	

活動名	団体名	広島県福山北警察署管内少年補導協助手連絡協議会
	地域	広島県福山市
	代表者	会長 山田 敏弘
	支援金額	30万円
活動概要		
<p>少年の規範意識の醸成を目的とし、8機関・団体の協賛を得て、当協議会会長挨拶・福山北警察署長挨拶・協賛機関等紹介後</p> <p>① 福山市立神辺東中学校吹奏楽部演奏 ② 中学生による万引き防止宣言 ③ 万引き防止チラシ配布 を実施しました。</p> <p>◆実施時期：平成21年10月17日 午前11時～午後0時30分 株式会社フジ フジグラン神辺店舗内</p> <p>◆参加人数：福山北警察署少年補導協助手、福山市教育委員会、福山北警察署防犯組合連合会員、福山市立神辺東中学校吹奏楽部、福山市青少年補導員、福山北警察署管内各町内会役員、福山市民生児童委員、聴衆</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 200名</p>		



《万引き防止キャンペーン》



《大型紙芝居》



《イベント風景》

◆実施に伴う効果

少年の非行防止・健全育成活動が、各機関・団体ごとに行なわれてきた中、本活動は、8機関・団体に呼びかけて開催したことで、連携が図れたことと、広報効果が上がることを示すことが出来たと思います。

◆苦勞した点

本活動について予算がない中、外部へ広くPRする手段、必要物品の調達等について繰り返し検討しました。
支援をしていただき、感謝しています。

◆今後の課題・発展の方向性

参加機関・団体を増やし、活動を「地域の活動」へと発展させていきたいと思っています。

◆活動を終えての感想・意見等

当協議会の少年の非行防止・健全育成活動をより活性化するためにも、本活動を発展的に継続させていきたいと思っています。

活動名 こどもの広場	団体名	こどもの広場実行委員会
	地域	広島県広島市
	代表者	代表 遊井 勝美
	支援金額	30万円
活動概要		
<p>1.中学生の企画運営による異年齢交流・地域交流 2.中学生の居場所づくり 3.地域世代間交流 4.小学生の居場所づくり 5.科学教室 6.地域行事への参加 7.料理教室 8.積み木教室</p> <p>◆実施時期:2009年4月から2010年3月まで 古市公民館・古市児童館・大町児童館・大町集会所</p> <p>◆参加人数:小学生 1,212名 大学生 56名 中学生 370名 大人 349名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 1,987名</p>		



《夏祭り》



《親子料理教室》



《カルタ水彩画(まつり)》



《地域カルタ大会》

◆実施に伴う効果

- ・中学生が企画運営することで、大人が企画するより、小学生が楽しんでいた。異年齢交流がスムーズにできていた。
- ・1年をかけて中学生が絵を描き、地域の人が言葉を考えたカルタを作成した。出来上がったカルタで大会を行い地域の大人も子どもも楽しんでいる姿が見られた。今後、高齢者サロン、保育園、幼稚園、小学校、中学校などで使っていただけるよう働きかけたが、高齢者はとても懐かしく思われその時代の話に花が咲いていた。これをきっかけにして、住んでいる誰もがこの地域を故郷として大切にしていきたい。
- ・地域今昔話をパワーポイントで地域の人が作成し、中学生がそれを寸劇をし、その後カルタ大会を中学生の運営で行ったが、とても楽しく温かい事業となった。中学生らしい力を発揮し、地域の人に感謝された。

◆苦勞した点

学校の行事やクラブ活動との調整を行いながら活動するので、段取り良く話し合いや準備をしなければならないこと。

◆今後の課題・発展の方向性

今後は、中学生の持っているものを引き出し、地域に自分達は何ができるかを考えそれを実践していくことで地域に愛される子どもを育てるとともに文化の伝承を受け、さらに生きる力を身につける。

◆活動を終えての感想・意見等

この活動を支援していただき、ありがとうございました。
今年度は中学生のすばらしさを地域に伝えることが少しできたと感じております。
子どもたちが地域の中で温かく見守られながら育ててもらいたいと思います。

活動名 東区障害児のためのサマースクール	団体名	東区障害児のためのサマースクール
	地域	広島県広島市
	代表者	代表 馬本 佳代
	支援金額	10万円
活動概要		
<p>障害をもつ子ども達が</p> <p>①夏休みを有意義に過ごせるように、身近な地域での居場所作りをし、将来就労を支える余暇活動を豊かに積極的に行なう。</p> <p>②地域との交流・連携を図り、理解を深める。</p> <p>③身近な地域での学年・学校を超えた本人・保護者同士の交流</p> <p>④公共交通機関を利用してのが外出や外食で社会性やマナーを身につける。</p> <p>ことを目的としています。</p> <p>夏休みの9日間、講師を招いて、リトミック、クッキング、プール、工作、フィットネス、レクリエーション、スポーツ活動、マジック、きつつきコンサート、昼食会を行ないました。</p> <p>◆実施時期：2009年7月22日から2009年8月26日まで 東区総合福祉センター、心身障害者福祉センター、府中イオンモール</p> <p>◆参加人数：障害児 276名 保護者 224名 ヘルパー 67名 兄弟姉妹 76名 指導員 47名 ボランティア 27名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 717 名</p>		



《サマースクール初日》



《タオルストレッチ風景》



《手作りキーホルダー》



《マジック風景》

◆実施に伴う効果

・地域との交流・連携の点では、地域の1人暮らしの高齢者グループ(ひまわり会)とのレクレーション・きつつき作業所のきつつきコンサートは、大変好評で、毎年なくてはならないものになっています。また社協登録のボランティア、ヤングボランティアセミナー受講生、大学生ボランティアなど地域の方々がたくさんおられ、子ども達とふれあって理解を深めていただいています。

・団体内の影響として、活動終了後のアンケート結果(回収率69%)において、「満足した93.1%」「どちらでもない6.9%」と、とても満足度の高いものとなり、夏休み中の身近な地域での居場所になれたようです。また、規則正しい生活が送れ、新学期もリズムをくずすことなく登校できそうとの声がありました。

◆苦労した点

・予算・・・今年度は昨年度より参加人数が増えたこと、初参加の小学校低学年が増えたこと、指導員も初めてお願いするカタばかりということから、指導員5人のかたにお願いし、常時2~3人来て頂いた。そのため指導員料にかかる金額が当初計画よりかなり高いものになった。しかし、貴財団から助成金を頂いたお陰で、それに充てることが出来、その結果、指導員さんのきめ細やかなサポートを受け、子ども達も安定していた。

・指導員さんの確保・・・理解ある方で、夏休み期間中のみアルバイトということや、大学生は8月初めまで試験があるとのことで、なかなか決まらなかった。

◆今後の課題・発展の方向性

・課題

- ①今年度は財政的にとても恵まれていましたが、来年度以降の予算の確保
- ②年齢幅(小1~高3)、障害の種類・程度もさまざまなので、企画内容を決定するのに悩む
- ③役員の負担が大きくなっているので、若い保護者にも協力をお願いしたい。

・今後の会の発展性

- ④長期休暇を家の中で過ごしている障害児親子に沢山参加してもらい、さらにネットワークを広げていきたい。
- ⑤地域の方との交流を広げて、またたくさんのボランティアさんにもサポートをして頂くことで、理解を深めていきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

今年で7年目を終えたサマースクールですが、年々定着し、参加者も増え、満足度も93%とかなり高いものとなってまいりました。身近で子どもの居場所となり、有意義な長期休暇になったと思われま。これも貴財団に助成をして頂いたお陰で活動の幅が広がり、きめ細やかな指導員さん、ボランティアさんのサポートを受けることができたからだと思います。また貴財団のスペシャリストバンクからお越しいただいた長原様のマジックはとても好評でした。今後も安価で、多種類の芸をお持ちのスペシャリストバンクを活用させていただきたく思っております。貴財団に心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

活動名	団体名	邦楽グループ 城友会
	地域	広島県豊田郡
	代表者	代表 宗廣 八江美
	支援金額	30万円
文化伝承邦楽「箏」の伝承指導		
活動概要		
<p>日本文化の代表「邦楽 箏」の伝承指導 日本文化伝承の低迷する現状において、私達、城友会は町内の子ども達に「箏」の伝承指導を東野小学校と協議のうえ取り組んでまいりました。 この活動も11年となり4年生になれば総合学習の授業で「箏」を習うという意識が定着いたしました。学校の希望は練習成果を町内の老人福祉施設へ演奏訪問することで「福祉の心」も育む教育を併せて取り組んでいます。 4年生終了後も希望者は自主練習に参加することで高度な「曲」に挑戦できるように個人指導にあたっています。 成果として、学習発表会にとどまらないで、町内文化協会・文化祭・敬老会等に自信を持って参加。継続練習をすることで上達が目に見え、やる気が伺えた。</p>		
<p>◆実施時期：・4年生授業毎週金曜日(13名) 午後2時～3時30分 ・自主練習 火曜日(6名) 午後3時30分～5時30分 土曜日(10名) 午後1時～17時</p>		
<p>◆参加人数：東野小4年生 13名 × 16回 = 208名 自主練習(登録者) 10名 × 91回 = 382名(毎回全員参加ではない) 参加総人員 560名</p>		



《敬老会》



《練習風景》



《発表会》



《支援助成決定》

◆活動が地域・社会に与えた影響

発表会の度に関係者からお褒めの言葉をいただきますが、10余年の活動を通して私達自身のグループが元気でなくては今後の継続指導は困難です。
経費も嵩む事業ですから私たちが感謝されるというのではなく、皆さんから声かけをいただくとやはり「マツダ財団」の支援があって私達の活動が発揮できていると改めて感謝を啓発。
今年初めて東野小学校が地域で支援をいただいている皆さんを招待して感謝の気持ち「ありがとうの会」を行いました。参加してみて多くの地域の皆さんが児童に関わって「昔の遊び」「環境」「安全」等々の指導に関わっているのが判りました。

◆苦勞した点

①予算

・小4年生総合学習の授業指導と希望者の特別指導において参加費を取らないで進めて来ましたが、維持管理費に無理が出ました。併せて、発表会の回数、参加者数が増えることで箏の借りに課題が残りました。

②外部へのPR

・広報チラシを作成。文化祭展示場・発表会等で配布啓発に努めました。

③参加者

・年度初めに小学校と協議計画を立てました。
・児童数が年々減少のため、自主練習参加希望者が少ない。

④地域の理解

・児童への指導も11年を迎え、また、発表会の都度「マツダ財団」の支援を頂き指導にあたっていることを啓発し、充分理解が得られているものと思われま。

◆今後の課題・発展の方向性

課題

・箏の面数が限られており、中には古くなった箏も多くなり音色が割れていい音色で伝えることが難しい。
・子ども達が個々の家庭で「箏」を持たないので、指導日数が多く大変である。
・同じ練習量でも個人差があり、全員を発表会に同じ曲で参加させるのに大変である。

発展の方向性

・現在は4年生を対象にスタートしていますが、年々児童も減少していますので希望者は自主参加者を募り低学年から指導にあたり継承に努めたい。

◆活動を終えての感想・意見等

日本の文化が忘れかけられている今日、財政面で「マツダ財団青少年健全育成事業」のご支援をいただき、一般的に習得する機会が少ないと思われる邦楽「箏」を、小学校と協議の上指導できましたこと感謝申し上げます。

本年度から中学校は音楽の授業で「箏」の学習を取り組まれなくてはとのことで、中学校は本年度より統合されましたので、東野小卒の生徒はみんな自信を持って演奏できているそうです。(^^♪)

私たち「邦楽グループ 城友会」は「マツダ財団青少年健全育成事業」を3回もご支援頂き今回が最後となりましたが、お蔭様で今日までの事業推進で活動も充実して参りました。

今後、児童が少なくなりますのでますます地域の支援が大切ではないかと思ひます。

社会情勢の厳しい中ご支援いただきましたこの活動を次年度も続けてまいります。

活動名 夢山コンサート～羽和泉 竹の楽団～	団体名	羽和泉みどりの少年団
	地域	広島県三原市
	代表者	代表 野々村 陽子
	支援金額	30万円
活動概要		
<p>地域にある竹についての学習や竹を使ったものづくりを行い、地域の自然やその活用について学ばせるとともに、竹を素材とした楽器を作り、演奏を楽しむ活動を通して、自然を守り育てることについて学ばせる。</p> <p>また、学校林「夢山」での森のコンサートを開き、豊かな自然の中でしの笛の音色を聴き、竹楽器を演奏する活動を通して、自然と一体となって音楽を楽しむ体験をさせることにより、自然に親しみ、自然を愛し、緑を守り育てる豊かな心を育てる。</p> <p>さらに、地域の方々を招待して発表の機会とし、自然の中での音楽会を通して地域の方々への感謝の気持ちを伝える。</p> <p>合わせて、シイタケ原木づくり・植樹・枝打ちなどの森づくりの活動を行い、自然を尊重する精神を養うとともに、自然豊かなふるさと久井のよさを体感させ、ふるさとを大切に思う気持ちを育てる。</p> <p>◆実施時期：平成22年3月7日(日) 10:00～13:30 三原市立羽和泉小学校 学校林「夢山」</p> <p>◆参加人数：羽和泉みどりの少年団 児童 62名／教職員 13名／保護者 61名 地域の方、他 36名／ゲストティーチャーなど 6名 参加総人員 178名</p>		



《夢山に響き渡る しの笛の音 ～石原先生による演奏～》



《しっかり根付いて大きくなあれ！～イロハモミジの植樹～》



《夢山に広がるやさしい音色 ～竹楽器の演奏1・2年生～》



《あたたかい音色を皆さんの心に届けました ～竹楽器の演奏3・4・5・6年生～》

◆実施に伴う効果

・ふるさと久井の自然の豊かさを子どもたちに伝えると言う趣旨に賛同いただき、地域・保護者など多数の方々の協力を得ることができた。引き続き、学校林「夢山」を中心にした活動への理解や協力が得られ、活動をさらに継続・発展させていくための良い機会となった。

・みどりの少年団の活動に関連した他市のグループからの参加者もあり、本活動の趣旨・成果を広めることができた。

・本団体の活動を広く地域の皆さんに知っていただくとともに、自然の竹を素材とした竹楽器のよさを広めることができ、様々な場で演奏を聞かせてほしいという声をいただいた。

◆苦勞した点

・野外での活動であり、地域の行事や学校の行事等との関係で予備日を設けることが難しかったため、当日の天候が最大の気がかりでした。寒い日ではありましたが、前日までの雨もあがり、予定通り学校林での活動が行えたことをたいへんうれしく思います。

・地域の催しや行事と重ならなければ、より多くの方々の参加が得られたのではないかと思います。より多くの方々に参加していただくために、様々なことを勘案しての期日の設定が難しいことだと思います。

◆今後の課題・発展の方向性

・継続した活動としていくために、竹楽器の補修や音の調整などに係る費用の捻出が課題である。
・今回の活動は冬の森での活動であったが、今後、春・夏・秋などの時期に合わせて計画的に森のコンサートを開催し、四季折々の自然のなかでの音楽会を行うことで、季節の移り変わりや自然の豊かさを一層体感することができると考える。

・地域の方々のグループ等による合唱やしの笛演奏などを盛り込み、地域との交流の場としていくことも考えている。

・児童によるしの笛演奏を取り入れ、竹楽器とのアンサンブルによる演奏など、活動を広げることができる。そのためには、練習時間の確保や指導者招聘のための費用などが課題となる。

◆活動を終えての感想・意見等

念願の竹の楽団の結成が実現しました。学校林「夢山」に竹楽器のやさしい音色を響かせる、保護者や地域の皆さんの前で自信を持って堂々と演奏する、竹楽器の音色と演奏する子どもたちの姿で保護者や地域の皆様に感謝の気持ちを伝えるという目的が達成できたことを何よりもうれしく思います。

冬景色の森に、竹楽器のやさしく温かい音色としの笛の澄んだ音色が響き、みんなの心に温かい灯を灯しました。この灯を絶やさないように、竹楽器の演奏をつないでいきたいと思ひます。

マツダ財団様のご支援に心より感謝申し上げます。有難うございました。

活動名	児童工作教室の新展開と環境美化及び、 地域資源を活かしたふれあいイベントによる 地域社会の絆づくり	団体名	晴海町・青社会
		地域	広島県呉市
		代表者	会長 山本 正
		支援金額	30万円
活動概要			
<p>地域の子供は地域の大人が守る、育てるために、地域社会の希薄な絆強化策のひとつとして、これまで「身近な環境改善」「子供達中心のふれあいイベント」「児童工作教室」等を展開している。平成20年度は、従来の活動を継続すると共に、18年度より始めた、子供達に人気の工作教室を、校区内のみでなく新たに、中央公民館、吉浦市民センターで開講など拡大し、多くの子供達にもものづくりの楽しさを体験させることができました。</p> <p>また、活動を推進する中で、青社会の得意とする手作り玩具を普及するために、市の関係部署と情報交換を行い、工作教室(ものづくり)と合わせて、玩具の正しい遊び方のコツや本当の楽しさを体得させる、新たな展開が必要となり、年度の後半は指導員講習会や市の大型イベントで玩具の展示や遊び場提供も試行し好評を得ました。</p> <p>◆実施時期：・平成20年4月1日～21年2月28日 ・晴海町自治会館を中心とした町内及び校区内小学校、公民館、公園他</p> <p>◆参加人数：・花まつり :250名 ・花火鑑賞会 :250名 ・環境美化行事 :200名 ・エコフェスタ :300名 ・工作教室関連 :600名 ・その他のイベント:650名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 2,250名</p>			



《中国新聞掲載》



《晴海町内夏休み工作教室》



《くれこどもまつり 集合写真》



《くれこどもまつり》

◆実施に伴う効果

- ①市の大型イベント参加で多くの子ども達がものづくりを体験。特にこども祭りの呉市立高校生との市民協働が初参加で成功した実績は今後繋がる他、幼稚園児、小学生、高校生を含めた幅広い地域の絆強化に役立った。また、ものづくり技術の伝承効果も期待できる。
- ②手作り玩具の展示、遊び体験コーナーで玩具工作の人気上昇。中央公民館他、4会場での延べ500日を越える。展示と遊び体験コーナー設置により、述べ1,500名の子ども達が遊んでおり、今後そのPR効果が期待される。
- ③市の大型イベント、こども祭りへの市立高校生と青社会の市民協働参加による成功は、市の関係部署より高い評価を受け、ボランティア情報紙で報告された。
- ④市の地域協働課を通して、広島市中区の市民団体から青社会活動の説明依頼があり、同団体の「呉市のまちづくり視察研修」の場で5年間の活動事例を紹介した。
- ⑤市民協働センターや公民館等での手作り玩具教室や遊び体験コーナーが話題となり、9月12日の中国新聞朝刊に掲載された。
- ⑥青社会開発のドーナツ形糸引きこまとその工作教室が話題となり、市のボランティア情報紙3月号に掲載された。

◆苦勞した点

- ①物価高による予算面の苦勞
 - ・花の苗、値上りに対しては、自前の苗(さし木、われ生の苗他)や、時期遅れや傷み苗等の特価購入、切り戻し等の再生苗などで対応した。
 - ・工作材料のプラスチック板(PPシート)や、ハンマ・ペンチ等の工具類の大幅値上り(約3倍)に対しては値上り前の旧型品を扱う遠方の店を探して調達した。また、限定モデルの再設計や纏め買いなどによるコストダウンに苦勞した。
- ②工作教室の指導員数や工作時間数の不足
 - ・教室の回数増加(9回/年)により、青社会工作指導員数の不足が生じたため、参加学童の保護者対象の指導員講習会を行い、カバーした。
 - ・指導員不足は、工作時間数不足とも関連があり、作品のシンプル化や技術的な難度改善、適正な工作時間、回数などトータルの見直しも今後必要。

◆今後の課題・発展の方向性

近年、学校の先生や保護者の多くが、学業中心で創造性を育てる「ものづくり体験」に理解不足の感があります。青社会は社会的使命感を持って下記課題に取り組めます。

①手作り玩具の遊び方、楽しさ体験不足

従来は玩具のものづくりに注力するあまり、遊び方のコツや、楽しさを体得するまで至らなかった点を反省し、今後は高校生ボランティアと協働で市のイベント会場で、「手作り玩具の遊び場」を設け、指導者を置いて、正しい遊び方、楽しさを体得させる。

[具体策の一例]

- ・くれ子供祭り 2009.5.4(月) くれポートピア(呉市立高生と青社会の協働の遊び場)
- ・エコフェスタ 2009.10.3(土) くれポートピア(会場のスペースを前年の2倍とし、遊び場確保)

②工作指導員講習会などによる手作り玩具の普及

[具体策の一例]

- ・プラとんぼ工作指導員講習会 2009.4.12(日) くれ市民協働センター
- ・スーパーカー工作講習会 2009.4.26(日) くれ市民協働センター

③青社会手作り玩具の公民館巡回展示による普及 (2009.4月～)

④これまで取り組んだ手作り玩具のブラッシュアップと新しい玩具の開発

◆活動を終えての感想・意見等

・町内の自治会活動のサポートからスタートした青社会は、この4年間、花壇の整備、拡張、維持管理に精進し、花まつりが地域の人気イベントのひとつとなったことを喜ぶと共に、青社会発足前の約13年間、細々ではあるが少人数で花壇をお世話くださった先輩たちの苦勞や思いを継続の力にしています。

・手作り玩具の工作教室は3年間で21回、約500人の子どもたちが参加しました。青社会開発のプラとんぼ、スーパーカー、動物の旗あげなど人気作品も生まれ、市のイベント会場や公民館などで展示や遊ばせるなど、新しい展開も動き出し、「継続は力なり」を実感しながら既に次年度活動の準備を進めています。

・この一年間、私たちの活動が継続できたのは、マツダ財団様の青少年健全育成の精神と支援金のおかげであり、心から感謝しております。

活動名 小学生が楽しく実習して理科好きになる 「地域と大学とのコラボによる 竹炭・竹酢液・竹塩作り体験」	団体名 大道山竹炭工房 地域 広島県東広島市 代表者 代表 今井 邦夫 支援金額 30万円
活動概要 <p>様々な知識や経験を持つ人たちがいる地域とものづくりなどの学習・研究機関である大学が密接に連携・協力を図り、自然と人とのふれあいを通じた、竹の伐採から窯・竹炭・竹酢液・竹塩作り、また、大学生の指導のもとに出来上がった製品の科学的効果の実験学習、更には作ったものを売って儲ける販売まで、普段小学校では体験出来ない「ものづくり」のすべてを太陽と豊かな自然環境の中で楽しく体験することにより、創造性、自主性、協調性を培うとともに、理科が大好きになり、将来「ものづくり日本」を担う人材になることを支援する活動です。</p> <p>◆実施場所：大道山竹炭工房及び河内小学校</p> <p>◆参加人数：主な参加者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大道山竹炭工房(今井、小田、永岡) ・河内小学校(教諭:小早川、科野、松野、生徒:16名) ・広島国際学院大学(准教授:渡辺 生徒:2名) <p style="text-align: right;">参加総人員 約192名</p>	



《竹の切断》



《大学生の指導のもと釜完成》



《竹炭電池製作》



《大学生による竹炭の品質指導》

◆実施に伴う効果

- ・16名全員で竹炭を伐って、風鈴を作ったが、全員の風鈴の音が違っていた。また、竹炭電池を作成し、全員の電圧を測って、誰の電池が一番高いのかなどを競争したとき、最高は1.3V、普通で0.7~0.9Vであった。
- ・これらの結果から、竹炭の長さ、硬さ、大きさなどがその製品に大きく影響することなど、色々と学ぶことがあったようです。
- ・こうした活動から、エコ電池やエコ風鈴が作れたことに、喜びがあったようです。
- ・小学校の先生から、「このような大学の准教授や大学生から理論的な学習ができ、更に作った竹炭で風鈴や電池をつくるといった学校では絶対出来ない活動をしていただき、とても感謝しています。」との声を頂き、工房としてとても満足しています。
- ・また、この活動も3年継続し、地元の方をはじめ遠方の方からも、「素晴らしい活動を長くがんばってやっているね。」との声を頂くなど、地域づくりに貢献出来たものと思っています。
- ・特に、小学校から1km以上の距離で蛇や蚊なども生息し、安全面に不安も付きまとう場所で、こうした活動が実現したのも、東広島市教育委員会、河内小学校の方々のご協力ご支援があったことであり、地域と学校の連携がより深まったことと思います。

◆苦勞した点

- ・小学校の授業の一環として、少人数のスタッフと大学との連携で活動することから、学校の授業時間、大学の授業などの調整が大変であった。
- ・生徒さんの安全を確保できるか、またどれだけ充実感を感じてもらうかの点に苦勞しました。しかし、大学との連携により、竹炭電池や竹炭風鈴、竹炭の性能評価などが出来たことは、昨年度と比べ、一段とレベルアップし、中学生レベルに近づいた活動になったものと思っております。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・トイレが無いことから、生徒さんには工房から少し離れているスタッフの自宅のトイレを利用して貰ったが、簡易トイレ的なものを設置したい。
- ・また、手洗い用の水を谷から引き込みたい。
- ・日本を代表する竹炭づくり小学校となるよう、さらにレベルアップし、海外(例えばタイなど)の小学校と連携や交流するようにしてみたい。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・新聞に掲載してもらえなかったのが残念であるが、今後はテレビで特集番組として取り上げて頂くように、発展させていきたい。
- ・小学4年生16名に、竹の伐採、窯作り、製品販売、更に竹炭電池や竹炭風鈴づくりまで貴重な体験を味わってもらうことが出来たのも、財団法人マツダ財団様のご支援を頂いたから出来たものであり、大変感謝申し上げます。

活動名	団体名	大学環境ネットワーク協議会	
	地域	広島県広島市	
	代表者	会長 森嶋 彰	
	支援金額	40万円	
学生による各種環境教育活動			
活動概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・小学生を対象とした環境出前講座 ・オリジナルエコバッグ作成、配布 ・水生生物調査 ・街頭・訪問先でのゴミ拾い ・みんなで行動プロジェクト ・定例会(月一回) ・各種環境イベントへの参加 			
<p>◆実施時期：平成21年4月～平成22年3月 県内の小学校、公民館、EPOちゅうごく等</p>			
<p>◆参加人数：環境出前講座 15名 エコバッグ作成、配布 30名 水生生物調査 5名 ゴミ拾い 20名 みんなで行動プロジェクト 15名 定例会 35名 各種環境イベント参加 20名</p>			
参加総人員 100名			



《小学校への出前授業におけるオリジナル紙芝居の上映》



《学生のライフスタイルにピッタリなオリジナルエコバッグ》



《原爆ドーム前でのアースアワーのPR活動》



《イベント(キャンパスフェスタ)で紙芝居を披露》

◆実施に伴う効果

- ・子供たちが環境に興味を持つきっかけ作りになった。
- ・市街地から離れた地域の小学校などでは、他の地域と連携しての教育などが取り辛いため、外部から普段と違う刺激を持って来てもらうと非常に有り難いと感謝された。
- ・主な対象となる小学生と比較的年齢に近い大学生と「一緒に楽しみながら学ぶ」ということで生徒が興味を持って積極的に活動に参加していたと感謝された。
- ・他団体との共催などを通じ新たなコネクションが出来、今後のお互いの活動に新たな可能性が生まれた。
- ・アースアワーの取組は、国内では2010年より本格的に始まったものであり、広島市からの依頼により、ジャパン・オーストラリア・インターナショナルと連携により、取組の存在と意義をPRし、マスコミやWeb上での効果的な発信等を実現する事が出来た。単に公共施設等のライトダウンが予定されていたものを、原爆ドーム周辺でのPR活動により、市民にはわかりやすく、対外的には海外通信社等を通じて、広島における環境に関する青少年活動等の様子を紹介できた。2011年以降は、広島市内外でアースアワーの取組が盛んになると予想されている。

◆苦勞した点

- ・各メンバーそれぞれ自分たちの所属サークルとの兼ね合いもあり、一部の主要メンバーに負担が集中しがちになってしまった。
- ・各プロジェクトの始動が遅れ、準備がギリギリになったり、参加者内で打ち合わせの時間が十分に取れず、活動に不慣れなメンバーが戸惑う場面があった。
- ・ホームページ、各種環境イベントでのチラシ配布などの手段でPRを行ったが、メンバーの都合がつかず(学生ということもあり、特に長期休暇の時期を除く学期中の平日)、出前講座の開催ができなかったりした。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・ホームページの充実、および主要メンバーの数を増やし、団体のフットワークを軽くすることで、出前講座などの活動の充実化を図る。
- ・プロジェクト毎の代表を限られた数人で兼任して回していくのではなく、可能な限り多くのメンバーに受け持ってもらおう。学生主体の活動のため、毎年主要メンバーが卒業などで代替わりをしていくという団体の性質もある為、新メンバーに早く団体に馴染んでもらい、ちょっとした仕事を任せ、経験をつませ成長させるというサイクルを確立させる。
- ・コンテンツ自体の質を上げる。また団体の性質上参加メンバーが時によって変わる為、その時々参加メンバーの慣れ不慣れで、コンテンツの質にブレが出てしまう。これを抑えるために参加メンバーへの事前のレジュメ配布・確認を徹底する。
- ・メンバー個々人がいろんなイベントに参加し、感想を報告したり、そこで得た知識を団体に還元したりして、アイディアが出やすい環境を作る。
- ・メーリングリストの活性化、skypeの活用などで定例会以外の場所での交流、意見交換の場の充実を図る。

◆活動を終えての感想・意見等

活動を通じて、交通費の個人負担が減った事などから主な活動となった「環境出前講座」の回数、参加者ともに増え、企画した私たちも楽しく活動することが出来、より沢山の子供たちの笑顔と触れ合い元気をもらいながら活動することが出来ました。ご支援ありがとうございました。

活動名 子供達に文化の継承とボランティア演奏	団体名	こども琴クラブ
	地域	広島県東広島市
	代表者	代表 久保 真由美
	支援金額	30万円
活動概要		
<p>こども琴クラブのメンバーは、週1回または2回練習をして、ある程度できるようになると、合奏形式の合同練習をします。月に1度は、地域の行事や、舞台上で発表します。また、老人施設などいき、演奏させていただきました。伝統文化である箏という楽器に触れ、その音色の素晴らしさを、多くのこども達に知って欲しく活動をはじめ4年が過ぎました。発表の場を地域に多く持ち、ご理解と応援をいただくようになり、すでに来年度の発表を、いろいろと計画中です。忙しい発表の合間をぬって、こども達のおたのしみ会(合宿や、クリスマス会など)も、保護者の皆様のご協力の元、行うことができました。その他に、ペットボトルのキャップを集めて、ポリオワクチンに変える運動に参加したり、いつも練習に使わせていただいているコミュニティハウスの前に花を植えたり美化活動にも取り組みました。</p> <p>◆実施時期：2009年4月～2010年3月 東広島市近郊</p> <p>◆参加人数：参加総人員 185名</p>		



《老人ホーム訪問》



《東広島市民芸術祭》



《練習風景》



《支援助成決定》

◆実施に伴う効果

- ・練習場所が小学校と隣接している為、下校からまっすぐ練習に来られる。児童数の少ないこの辺りの児童にとって、友達と過ごせるたのしい時間のようです。
- ・地域のおまつりや敬老会で演奏させていただき、交流がふえ応援していただくようになりました。
- ・老人施設に行くと、手拍子と一緒に歌を唄い、「ありがとうね。」と逆に声をかけていただき自分にできる暖かいボランティアを体感できたと思います。この活動を聞いた他施設から演奏の依頼が来たので、良い成果が出ているのだと思います。
- ・こども達の演奏を見てくださった、他の伝統文化団体の方から、すそのの広がりを楽しんでいますと、応援のメッセージをいただきました。

◆苦労した点

- ・楽器が大きい為、発表の場までの運搬に毎回苦労をしています。ほとんどの場合、わが家の自家用車に全部積み込み、保護者の負担を軽くしてきました。今年は、マツダ財団の支援のおかげで、一番遠い遠征には大型バスを利用でき、時間的、物理的な負担がなかったです。これからも一箇所でも多くの施設に演奏に出かけてみたいのですが、楽器とこども達の移動に頭を悩ますことと思います。
- ・こども達の授業や、学校行事との調整がなかなかできず、計画を立てにくいです。
- ・広報をもっと充実させたいのですが、時間的に負担が大きくなり継続できていません。マツダ財団からの支援については、行事発表の都度、口頭で公表しました。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・楽器の運搬についてはそのつど、保護者の協力を得ながら行うしかないと思います。
- ・聞いてくださる側に立って、本当にボランティアになっているか、内容をよく考え、プログラムの編成を構築してゆこうと思います。
- ・外国の方との交流の場を持ちたいと考えています。

◆活動を終えての感想・意見等

一年の活動記録を読むと、実に充実した一年でした。それぞれにこども達が真剣に取り組んでくれて素晴らしい発表にしてくれました。その表情を見ていると、何事にも努力して完成へ近づけようとする集中力がついているように思えます。異年齢の子どもの集合で、仲間意識がたいへん強く思いやりの心が満ち溢れています。地域との関わりを持ち、ボランティアにも積極的に取り組みました。楽器は、古いものも多く、糸は消耗品なので、メンテナンスが大変でしたが、マツダ財団様からの支援により、糸の張替えや、備品をそろえることもでき来年度に向けてまた、活動の幅を広げ、続けることができます。おかげさまで素晴らしい一年になりました。心より感謝申し上げます。

活動名 ART PARTY	団体名	ART PARTY実行委員会
	地域	広島県広島市
	代表者	代表 渡部 朋子
	支援金額	35万円
活動概要		
<p>ART PARTYとは、NPO法人ANT-Hiroshimaを事務局として広島市内の団体が実行委員会をつくり、毎年12月に行う美術展です。支援を必要としている世界の子も達が、日常風景や文化・風習を描いた作品は、1枚1,000円以上で販売され、その収益金は全額子ども達の自立と夢の実現に活用されます。</p> <p>◆実施時期：2009年12月17日～2009年12月22日（17日は設営日） 広島県民文化センター 地下1階 展示室2、3</p> <p>◆参加人数：実行委員会 11名 ボランティア 40名 入場者数 476名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 527名</p>		



《会場入口》



《会場にて課外授業》



《ボランティアの若者》



《パキスタンの子ども達の作品》

◆実施に伴う効果

- ・来場された方に、世界の子ども達の現状や生活を知っていただく機会ができた。また、ニュースや新聞などで見る遠い世界の出来事も、より身近に感じていただくことが出来た。
- ・幼稚園や小学校の、課外授業の場として活用していただいた。
- ・ボランティア同士の交流がうまれた。毎年参加してくれるボランティアも増えた。
- ・ボランティアには興味はあったが経験したことない人にも、気軽に参加できる活動となった。
- ・年々、開催を心待ちにしてくださるお客様が増えた。
- ・広島ヒューマンアカデミーのピース作品コンテスト入賞作品を展示し、その作品を各施設へ寄贈することで、日本の子ども達が考える「平和」を感じてもらおう機会が出来た。

◆苦労した点

【来場者・購入者・売上げの減少】

- ・会場が地下にあるため、人が入りにくく、例年に比べると若干入場者数が減った。
- ・開催期間が12月後半だったため、時期的に学校の授業としての参加が難しかった。(広島市立基町小学校、広島YMCA幼稚園)
- ・昨年に比べ、1枚あたりの絵の購入金額が低かった。

【PR】

- ・テレビ・新聞などでのPRは効果があったが、路上でのPR(ポストカードを配布)は、なかなか受け取ってもらえず、また、受け取っても来場までには到らなかった。

【会場】

- ・会場利用料が高かったため、予算の都合上、例年より開催期間を1日短くした。
- ・初めて開催する会場のため、ART PARTYの趣旨や展示方法について、会場側と行き違いがあった。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・開催場所・時期の検討(来年は12月上旬、アステールプラザで開催予定)
- ・平和教育の場としての利用(学校への呼びかけ)
- ・会の趣旨を理解し、より多くの入場者や購入者を増やすためのPR活動
- ・運営費の確保(助成金・運営基金など)
- ・他団体や学校、企業との共催

◆活動を終えての感想・意見等

7回目のART PARTYでしたが、会場や会期がかわったため、不安いっぱいでした。スタッフやボランティアの皆さんが、それぞれの役割を理解し、協力して和やかに開催できました。毎年のイベントとして楽しみにして下さる方も増えています。

しかし、期間が12月後半だったため、年末近くは慌ただしく、学校単位での来場も困難なことから、来年からは例年どおりにしてほしいと言う声も聞かれました。その反省をふまえつつ、次回のART PARTYをより良い美術展にしていきたいと思えます。

活動名 第12回猿猴川河童まつり	団体名	段原地区町づくり協議会(猿猴川河童まつり実行委員会)
	地域	広島県広島市
	代表者	会長 高木 修一
	支援金額	20万円
活動概要		
<p>猿猴川流域の地域連帯、国際交流、環境美化、青少年育成をテーマに、過去11回河童まつりを開催してきました。第12回猿猴川河童まつりは「エコもりだくさん」「物の怪行列」をメインテーマとして、地域の公衛協や猿猴川流域の4地区青少協がエコ企画・エコマーケットに参加協力してくれ、また物の怪行列には学生のボランティアが昨年同様協力してくれた。今年初めて地域で生まれた和太鼓(以心伝心太鼓)の青年男女もボランティアで呼び込み太鼓を叩いてくれた。</p> <p>◆実施時期：2009年9月13日(日) 猿猴川右岸特設会場(大正橋西詰から平和橋西詰までの河岸緑地一帯)</p> <p>◆参加人数：ステージ出演者：465名 (河童ステージ出演者286名) (平和ステージ出演者179名)</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 50,000名</p>		



《段原みみょう保育園》



《段原小学校》



《ソーラン》



《段原中学校 吹奏楽部》

◆実施に伴う効果

段原地区公衛協

'キャップを集めて「ポリオワクチン」を世界の子どもへのキャンペーン'の継続で地域やボランティアだんばらの協力、連帯感が生まれて活発になった。

◆苦勞した点

・予算

不景気で協賛企業の広告や幟が減り、またスタッフの退会や休会がでた為、全員で協賛者の新規開拓に努めた。

・外部へのPR

- 1、南区の河童伝説地めぐり・看板設置・式典に参加 8名(2月15日)
- 2、市の「新球場ようこそ大会」パレード・ステージに協力・参加 22名(4月2日)
- 3、市民広報誌「らしっく」に掲載(6月5日)
- 4、市の「ごみゼロ・クリーンウォーク」に参加 13名(6月7日)
- 5、河童まつり開催のPRを会場で撮影、ケーブルテレビ 7名(9月9日)

・参加者

河童ステージの出演者は幼稚園、小中学生と地元優先で神楽を入れると、ほぼマンネリになる為、平和ステージを青少年育成と位置付け、学生に任せ司会から出演者までを募集・企画してもらい、後はスタッフが協力した。

・地域の理解

段原地区17町全町に広告協力して頂き、他地区も呼びかけで参加して頂いた。

◆今後の課題・発展の方向性

・今後の課題

今期より河童まつり当日だけでなく、年間を通じて市のイベント等、参加協力してきたが、今後は話し合いを持ち早めに企画・テーマを、決定できたらと思う。

・発展の方向性

市民が行事に主役として気軽に参加でき、楽しめ、皆で盛り上げる祭りに！！

- 1、来年は広島で全国アニメーション大会が有るので、行政と協力して何か出来たら？
- 2、環境問題では廿日市市の「鉄炭だんご」の勉強会をする予定

◆活動を終えての感想・意見等

今回のまつりは継続の危機感もあったが、皆で一致団結して頑張り終えることが出来たのと、学生たちが積極的に参加協力(ボランティア)してくれ、継続していける自信が持てたのが一番の成果であった。

今回の支援金本当に有難うございました。

活動名 加計小夢配達人プロジェクト推進事業 巨大万華鏡づくり	団体名	加計小夢配達人プロジェクト安芸太田実行委員会
	地域	広島県山県郡
	代表者	会長 河野 義文
	支援金額	40万円
活動概要		
<p>「人が入れるくらいの巨大な万華鏡が作りたい」という子どもの夢を実現するための取り組みを、夢配達人プロジェクト推進事業として、学校と地域の大人達が「夢配達人」と一緒に支援し、万華鏡についての学習や手助けを進めるなかで、巨大万華鏡づくりに取り組みを行った。青少年の夢実現に向けた取り組みや目標を育む地域づくりを推進していくための良い活動の場となった。また、その成果として作成した巨大万華鏡を加計小学校内に設置して、広くみんなに科学とものづくりを体験し考える場として、楽しんでもらうことを考えている。</p> <p>◆実施時期：平成21年4月～平成21年10月 安芸太田町立加計小学校 (活動の中心は小学校、活動内容により安芸太田町内各会場)</p> <p>◆参加人数：実行委員会62名、推進会議79名、総合学習45名、 万華鏡工作教室65名、太田川の石採取18名、プレート作成28名、 万華鏡搬入10名、完成作業40名、完成発表会170名、移動6名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 523名</p>		



《万華鏡工作教室》



《巨大万華鏡を覗いて》



《巨大万華鏡制作発表会》



《巨大万華鏡完成》

◆実施に伴う効果

- ・活動を通じて、加計小学校児童、加計中学校生徒、夢配達人、地域住民他多くの方との交流を図り深めることができた。
- ・万華鏡の仕組み等を学習するための工作教室などを開催したことで、「家庭や各地域の場で活用したい」等の声を頂くなど、広くこの事業をPRすることができた。
- ・完成発表後、町外から巨大万華鏡をみにこられたり見学に来られたり、何件かの問い合わせがあった。

◆苦勞した点

「人が入れるくらい大きな万華鏡づくり」子どもの夢実現に向け、想像から創造へ移行するなかで、形状、大きさ、材質、駆動力、模様など、具体的な巨大万華鏡の完成イメージを共有できるまでに多くの時間を要しました、その中で特に、万華鏡の模様となる具材の選定やその具材をどの様に変化させるかなど、仕組みの具現化に苦勞しました。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・巨大万華鏡は加計小学校内に常設ですが、今後は、在校生により、万華鏡の模様となる回転部に新たな具材の入れ換えを行うなど、科学とものづくりを体験し考える場となるよう活用します。
- ・移動可能な範囲で、学校交流事業や町内観光イベント等で活用し多くの方に、科学とものづくりを体験し考える場を提供し、広くみんなに楽しんでもらえるように巨大万華鏡を活用します。
- ・今後の課題として、巨大万華鏡はかなりの重量があり移動には4トントラック等が必要となり、移動会場に対応させた移動方法や、それに係る経費をどのようにしていくか。また、巨大万華鏡のPRや模様の変化を含め、どの様に活用していくかだと思えます。

◆活動を終えての感想・意見等

「万華鏡を作るのが上手な人に手伝ってもらって、人が入れる位の大きな万華鏡が作りたい」という6年生の夢実現に向けた活動を通じて、夢を形にする事の難しさや、試行錯誤を繰り返しながらも、夢配達人と児童・生徒・職員、その他多くの方にご協力をいただき、知恵や力を結集すれば夢は必ず実現するという事を、あらためて実感することができました。また、多くのことを体験し学ばせていただきました。これも、マツダ財団からの多額の支援をいただいたからこそ実現出来たことと感謝しています。ほんとうにありがとうございました。

活動名 北広島町夢配達人プロジェクト推進事業 (植物写真集作成)	団体名	北広島町夢配達人プロジェクト実行委員会
	地域	広島県山県郡
	代表者	会長 小川 和夫
	支援金額	30万円
活動概要		
<p>児童達が雲月山の山焼きに参加、植物の観察学習、写真撮影を行った。 「全国草原サミット(全国子ども草原サミット)」において雲月山の山焼きと植物をテーマにした自作劇を発表。 撮影した写真を広島市内の会場で展示、写真集を完成させた。</p> <p>◆実施時期：平成21年4月～平成22年3月 雲月山：広島県山県郡北広島町土橋 雲月小学校：広島県山県郡北広島町南門原</p> <p>◆参加人数：21名</p>		



《雲月山の山焼き参加》



《植物観察会風景》



《全国草原サミット発表》



《知事訪問》

◆実施に伴う効果

1人の児童の夢の採択は、「写真集を作ることで雲月山の魅力をみんなに伝えたい」という全校児童17名の夢へと広がっていく。

学校で雲月山の植物の観察学習、植物の写真撮影の学習、植物への思いを表現する学習等に取り組むことで、雲月山の山焼きが植物にとって大切なこと、雲月山と植物が地域の宝であること、そしてそれらを守っていくのは自分たちであることを学んだ。

そしてその思いは保護者へも広がる。児童の写真撮影の援助をしたり自ら写真撮影をしたりと、写真集作りへの協力を得ることができ、写真集作りと同じ思いで取り組んだ「全国草原サミット(全国子ども草原サミット)」におけるオペレッタの発表の衣装は全て保護者の手作りであった。

地域では夢実現のため教育委員会・学校・保護者・地域住民で構成する「北広島町夢配達人プロジェクト実行委員会」を設置し、事業展開について協議を行いながら事業を進めていった。夢配達人の派遣、写真集作りの支援、雲月山の植物についての学習の手助け等に取り組んだ。

これらの活動を通して学校・家庭・地域が一体となって児童を育てるという意識が高まった。さらに写真集を地域に配ることで、地域の方々に地元にある雲月山の植物の素晴らしさを見直してもらい、それを守るための取組の大切さについて改めて考えてもらう機会になった。

また、写真集作成と併行して行ってきた「雲月山の植物写真展」によって、北広島町内はもちろん県内の方々にも「雲月山の植物の美しさ」と同時に、「自然環境を守ることの大切さ」についても発信することができた。

◆苦労した点

学校で本格的な写真集を作るということがほとんどないため、全体の構成をどのようにするかを決めるのが難しかった。植物観察の実践集で終わらないよう、実行委員や夢配達人にアイデアをもらいながら職員、子どもたちで何度も話し合い、ようやく写真集を作りあげることができた。

写真集づくりは、完成するまでは外部に見てもらえないため、PRする機会が少なかった。取組を知ってもらうため、撮り貯めた写真から子どもたちが好きな写真を選び拡大して広島市内の施設及び北広島町内の公民館等へ展示した。展示したことによって新聞やテレビ取材を受け、県知事表敬訪問まで発展した。

完成した写真集を校区の全戸や山県郡と安芸高田市の学校へ送り、地域のみなさんにも雲月山の植物の素晴らしさを広めたいと思ったが、予算的に厳しいものがあつた。マツダ財団からの資金援助をしていただいたおかげで、初期の目的を達成することができた。

◆今後の課題・発展の方向性

・写真集を校区や周辺の市町に送ったことやオペレッタを上演したことにより、雲月山の植物に対する関心が高まり、雲月山へ登る人が増えてきた。地域の活性化につながる反面、植物の盗掘等の心配もある。

・地域の宝である雲月山とその植物の写真集が完成したことで、もう一つの宝である「カワシンジュガイ」についての学習への児童の意欲が高まっていくものと考え。課題としては時間の確保である。3年生以上の総合的な学習の時間に子どもたちが、調べたい問題を設定し問題解決的に扱っていく予定である。

・全国子ども草原サミットで出会った学校の子どもたちに加えて、写真集を通して知り合った学校の子どもたちとの交流が可能である。

・交流を継続していくことで、本校で進めてきた「かかわり合い」の機会が増え、子どもたちの視野を広げることができる。

◆活動を終えての感想・意見等

・夢はもたなければかなわない。夢を持つからこそかなう。

・自分たちの写真集ができるなんて夢みたい。

・写真集は子どもたちにとって一生の宝物になる。

・地域にとっても写真集は今の雲月山の姿をずっと残す宝物になる。

活動名 認知症予防の「脳と体の健康ルーム(NPO運営)」の 展開と若者サポーターの参加と育成プログラム	団体名	NPO法人うたしの会
	地域	広島県広島市
	代表者	理事長 山田 トモ
	支援金額	15万円
活動概要		
<p>超高齢社会が到来する中、高齢者が最も不安とする一つに認知症があります。この認知症予防や健康増進・維持を目的に「脳と体の健康ルーム」を開き、主婦層をサポーターとして広島市内で活動を進めています。平成21年度はこの健康ルームの充実しつつ新設を図りました。その際に、大学生を含む若い世代にボランティア参加を求めて、高齢の受講者からシニアの主婦層サポーターに加えて若者のサポーターで構成される幅広い世代のコミュニティづくりや地域づくりを目指しました。</p> <p>◆実施期間;平成21年4月～平成22年3月末 実施回数;126回(各常設ルームで週1回実施) 実施場所;佐伯区五日市中央集会所・中区八丁堀幟会館・西区己斐公民館 サポーター養成講座;三篠公民館7/11・己斐公民館11/14 出前講座;中野公民館・三篠公民館・市民交流プラザ・各集会所など</p> <p>◆参加人数: サポーター動員延べ790名 高齢受講者延べ1,188名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 1,978名</p>		



《サポーター養成講座》



《ボール体操》



《体のトレーニング》



《脳トレーニング》

◆実施に伴う効果

- ・サポーター養成講座の実施で、早速にも支援希望者が現れて、己斐公民館との共催になる「西区己斐・脳と体の健康ルーム」新設が実現できました。養成講座を受講した大学生は、「脳と体の健康ルーム」の役割が理解でき、読み書き・計算のプリントが脳の活性化に効果があると理解されました。さらに最適な教材を使用していると実感し、高齢者に関わらず、繰り返し継続学習することが学習者の自信に繋がると思うとの感想を書いています。
- ・学習療法センターから講師を招いての講演会には広島市民の方々が多数参加され、健康対策をする大切さや脳の仕組みなど知ったと、好評でした。どうすれば自分たちの近くで開いてもらえるか等の要望も多々ありました。
- ・3つの健康ルーム(五日市、八丁堀、己斐)の受講者とサポーター双方の触れ合いが、良い刺激になり、地域活性化につながっていると考えられます。

◆苦勞した点

- ・サポーター養成講座へ参加を求めてチラシやポスター持参で各大学・高校を訪問しました。しかし認知症予防は学生さんにとって身近な問題と捉えにくく、平和や環境問題に比べてもまだ関心が低いように感じられました。若い人たちにとって、ボランティア活動している事が入試や就職時の折にプラス要件になればと思います。
- ・高齢者は自己投資をすることが不得手なようで、無料ならば参加の気運が強い。会費の半分以上が教材費仕入れなので運営が厳しく、どうしたら活動を継続できるか苦慮しています。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・「読み書き・計算」の学習療法は、大学や高校の学生さんにとり付き易いと想像しておりましたがそうでなく、もっと参加の動機付けや魅力づくりを検討しなければと反省させられました。
- ・急速な高齢化社会に、元気に暮らせるような地域づくりがもっとも大切です。「脳と体の健康ルーム」のような活動を坂の多い所でも拡げていくには、どうしても送迎システムが必要になってきます。行政や地域の団体と協力して造りあげたいと思います。
- ・小学校の空き教室利用の「脳と体の健康ルーム」の開設を目指し、三世代交流が自然に行われる地域づくりも目指したい。

◆活動を終えての感想・意見等

マツダ財団様からのご支援があり、スタッフやサポーターの皆で楽しく活動できました。厳しい経済状況にも関わらず、ご支援・ご協力下さる社会貢献活動に心から感謝いたします。このようなご支援や私たちの着実な活動に対する評価から、平成22年度には飛躍につながるような助成をいただけることになりました。

活動名 障害児の余暇活動と支援	団体名	府中町手をつなぐ親の会
	地域	広島県安芸郡
	代表者	会長 長尾 知絵子
	支援金額	20万円
活動概要		
<p>主として月1回定例会を開き、情報交換や余暇活動の準備をしている。余暇活動はプール・リズム・スポーツ・音楽・料理などさまざまな活動を実施し、一人一人が興味・関心を持ち、力を発揮できる活動を考える。また、周囲の人たちへの理解を深め、共生できる社会づくりをめざし、研修会等を提案する。</p> <p>◆実施時期：① CAPワークショップ(大人7/25、子ども7/28) 府中町老人福祉センター 福寿館 ② 夏祭り(8/22)府中町老人福祉センター 福寿館 ③ バス遠足(3/22)安佐動物公園</p> <p>◆参加人数：① 大人12名、子ども27名 ② 子ども54名、保護者27名、ボランティア38名 ③ 子ども17名、保護者12名、ボランティア14名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 201名</p>		



《夏まつり ～多くの友だちが集まったよ～》



《かき氷屋さん ～ぼくもできるよ!～》



《CAP(子どもの暴力防止)ワークショップ》



《どうぶつえんにいったよ!》

◆実施に伴う効果

①CAPワークショップ

大人ワーク:我が子のいじめによる不登校等の苦悩のある保護者から「もっと多くの人が参加すべきだ」という感想があった。

子どもワーク:学級で“なんでも相談会社”という係りをつくりました。今日のことを参考にしてみんなの相談にのりたいとおもいます。という感想があった。

②夏祭り

地域の子どもたちの参加により、にぎやかに行なわれた。障害によっては難しいことも子ども同士が助け合って行動する姿がみられた。

③遠足

館内での取組が多い中、外での活動・団体行動の支援の方法を学ぶきっかけとなった。

◆苦勞した点

①CAPワークショップ

地域の人への周知の方法

広報掲載・案内配布・関係会議での案内・呼びかけをしたが、参加者が増えなかった。

対象者 小3～6の子どもを対象にしたため、理解度に幅があった。

②夏祭り

当日運営をまかせていたボランティアに新型インフルエンザの疑いがあり、準備が遅れ急な対応におわれた。

③遠足

各校の学校行事を優先すると日程調整が難しい。

館内での活動と違い、想定できない行動も多く、集団行動については見直しが必要

◆今後の課題・発展の方向性

①CAPワークショップ

本来障害のある子どもへのワークショップを望んだが、障害の種類・程度や年齢の違う子どもたちに実施は難航した。地域の子どもたちが自信をもって生きること、自分を大切に思い、その上で考えてほしい。障害の有無に関わらずお互いの気持ちや力を高めていけるような講座等を考えていきたい。

②夏祭り

それぞれの子どもたちができる取組を見直し、少しずつ自主的な活動を楽しくできるよう増やしていきたい。

③遠足

広範囲での行動の仕方、ボランティアの支援の仕方など多くの課題はあるが、活動の枠を広げ、館外での活動も取り組みたい。ボランティアとの事前の打ち合わせ、確認事項を明確にし、実施したい。

◆活動を終えての感想・意見等

支援していただいたお陰で、例年にない活動を実施することができました。

有意義な活動となり、子ども達の笑顔を沢山みることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

今後とも支援をよろしくお願いいたします。

活動名	団体名	こどもステーション
歌による子どもたちの表現活動の支援 子ども・子育て情報紙の発行による 地域の中での子育てを支援	地域	広島県福山市
	代表者	代表 奥野 しのぶ
	支援金額	30万円
活動概要		
<p>子どもコーラス「コールバンビ」の運営により、子どもたちがその年齢に適した音楽活動を行うことで、表現することの楽しみ喜びを見つけ出し、子どもたちを取り巻くおとなと子どもたちが、お互いに尊重しあいながらエンパワメントできる関係作りをサポートします。</p> <p>子ども・子育て情報誌「はらっば」の発行を通じ、子どもたちや子育て中の親同士が参加できる地域の子育て支援情報を提供しながら、地域のネットワークをつくり出します。</p> <p>◆実施時期：2009年4月1日～2010年3月31日 福山市神辺町</p> <p>◆参加人数：子どもコーラス「コールバンビ」</p> <p>①毎週水曜日(全40回)参加子ども数 4月14名、5月15名、6月13名、7月10名、8月7名、9月6名、10月16名、11月16名、12月14名、1月15名、2月18名、3月18名 コンサート子ども出演者数</p> <p>②2009年10月18日 クルトピア明郷ファミリーコンサート 3名</p> <p>③2010年3月22日 コールバンビコンサート 100名 子ども・子育て情報誌「はらっば」発行 毎月最終木曜日発行2009年5月号～2010年4月号各1,800部</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 270名</p>		



《コールバンビ コンサート風景》



《コールバンビ コンサート風景》



《コールバンビ コンサート風景》



《練習風景》

◆実施に伴う効果

コール・バンビの歌声は、②③のコンサートを通じて、たくさんの方々に感動を与えました。特に③のコールバンビコンサートでは、大ホールで開かれるコンサートなどにはなかなか出かけられない地域の高齢の方々に、「とても楽しかった」「来年もまたやって欲しい」「長生きしてよかった」と大変感謝されました。「発達障害なのだけれど参加できますか」と言われていた子どもも、短い期間でしたが、お互いの違いを尊重しあう仲間の中で、緊張しつつも、本番にはみごとなハーモニーを響かせていました。ご両親は、我が子の姿に感動して涙を流していました。

子育て支援情報をいただいて掲載し、配布・設置にご協力いただいている幼稚園・保育所などから、「保護者の方からも園庭開放の日にもちなど確認でき好評です」「他機関の子育て支援も確認でき、毎月楽しみにしているようです」と喜んでいただいています。子育て中の保護者からは、毎月発行を待ちわびる声が聞こえています。初めて子育て支援活動に参加される方に「『はらっぱ』を見て参加してみようと思いました」と言われる事が多いです。2009年度のこどもステーションの子育てひろば参加者合計は、3,200人を上回っています。情報誌の効果は大変大きいと思われれます。また、これまでに参加することができていない保護者にとっても『いつか行ってみたい』と思える場所があるということが、子育てに安心感をもたらすという声も聞いています。

◆苦労した点

子どもコーラス「コール・バンビ」では、参加者集めに大変苦労しました。通年の活動には名義後援を得ることができなかつたため、学校を通じて子どもたちに活動の存在を知らせることができませんでした。また、予算が不足していたため、参加費を下げることはできず、参加者が増えてからの検討事項となってしまいました。しかし、ついに十分な参加者で活動するには至らず、講師の謝礼を十分に支払うことができませんでした。しかし、講師のご協力ご理解を得て、活動を続けることができました。

子ども・子育て情報誌「はらっぱ」では、紙代・郵送料・イラスト料の支払いなどに予算を当てることができ、大変助かりました。公益性の高い活動であると自負していますが、民間団体の発行物であるということで神辺町内の一部の公民館では設置してもらえませんでした。しかし、設置や配布をお願いしている約50ものスーパーや病院・保育所・幼稚園などの機関からは大変好評で、子育て支援に関するさまざまな情報をいただくことにも協力を得ることができ、この情報誌を通じて神辺町に大きなネットワークが出来上がっていると感じています。

◆今後の課題・発展の方向性

子どもコーラス「コール・バンビ」は、2010年3月末をもって、こどもステーション主催では活動を休止しています。しかし、そこに集ってコーラスを楽しんでいた子どもたちを見捨てることはできず、講師の先生にお願いし、活動を継続していただいています。いつか、こどもステーションの拠点ができ、事務局体制などが整った暁には、活動を再開し、子どもが表現活動に参加できる場を実現していきたいと考えています。

子ども・子育て情報誌「はらっぱ」においては、2010年度は、福山市キーワードモデル事業として提案し、行政との協働事業として活動することで、公益性を認めてもらえるようにしていきます。発行部数や設置箇所などを増やしていきます。そしてその内容の魅力作りに努め、情報誌に対して、広告や支援が集まるような活動にしていきたいと考えています。

◆活動を終えての感想・意見等

子どもコーラス「コール・バンビ」では、私たちにとっては少し背伸びをした活動となりましたが、参加した子どもたちやそこに関わった大人にとっては、大変忘れがたい有意義な活動となりました。経済的な事情で参加にはいたらなかった子どもには大変申し訳なかったと思っていますし、子どもたちの放課後の自由な時間がますます少なくなっていく現状にも危機を感じています。

子ども・子育て情報誌「はらっぱ」は、今後ますます注目を集める活動となっていくと思います。そこで将来的には、作成・編集・配布に関する人件費なども支払えるよう、活動していきたいと思っています。

活動名 都市ギャラリープロジェクト	団体名	広島市立大学都市ギャラリープロジェクトチーム
	地域	広島県広島市
	代表者	准教授 金 泰旭
	支援金額	25万円
活動概要		
<p>本プロジェクトは様々なアクターを巻き込みながら芸術空間を創造し、地域活性化を図ることを目的とする。同時に、国際性も取り込んだ事業運営を目指している。</p> <p>今回は目的達成手段として、広島駅新幹線口に設置されている工事現場の仮囲いを活用してアートを施した。ワークショップを通じて真の活性化、草の根からの国際交流を達成できたのではないかと感じる。同時に、ワークショップ対象者に環境問題、地域活性化に対して考える機会を提供できた。</p> <p>◆実施場所：広島駅新幹線口前に設置された仮囲い</p> <p>◆参加人数：広島市立荒神町小学校、広島市立尾長小学校、社会福祉法人寿老園老人ホーム、二葉公民館日本画グループ「遊」、東広島市河内中学校美術部、広島市立城山北中学校美術部、広島市立古田中学校美術部、広島市立東原中学校美術部、韓国・ソウル啓星小学校、西京大学</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 425名</p>		



《作品全体図》



《みどりの家といきものキャラバン》



《小学校でのワークショップ》



《中学校でのワークショップ》

◆実施に伴う効果

小学生対象のワークショップでは、「住み良い街とはどのような街なのか」というテーマのもとに、同時にその実現の為には何をすればいいのかを考えてもらいながら子供たちに作品作りを行ってもらった。

後に実施したアンケート結果からは「ゴミのない街にしたい」「これからは分別をし、無駄使いをやめようと思った」といったような意見を得ることができた。このようなことから、彼らに環境問題を提起した教育プログラムを提示できたと考えられる。

また小学生以外の地域住民にもワークショップの感想を聞いてみたところ、「地域活性化に対する意識が高まった」「地域活性化を目指す活動に関わることができてうれしい」という声を多数頂き、地域活性化について考える機会を提供できたと考えられる。

◆苦勞した点

本プロジェクトチームが直面した苦勞した点として3点が挙げられる。

まず1点目、一番難色を示したのは、やはり作品作りにあたっての資金調達である。プロジェクトの趣旨に賛同して下さる企業になかなか巡り会えなかった時期もあり、時には何時間も叱責を受けたこともあった。協賛金を集めるということは、当たり前ではあるが生易しいことではないと痛感した。

2点目は、小学校に対するアプローチ方法である。学校に授業の一環としてワークショップを組み込んでもらうことが意味する先には、学校に対する確然とした説明責任が生じるということである。また保護者の方に配慮したアプローチ方法をとる必要がある為、試行錯誤しながら何度も調整のために小学校に通った。またワークショップ時も整然たる手順を進めていかなければいけないという緊迫した状況の中で行われた。更に、決められたカリキュラムが存在する教育機関の中で我々のプロジェクトをどのように関連付けるかについて苦勞した。

3点目は、いかに一般の人々に作品コンセプトを理解してもらうか、という策を練ることに悩まされたことである。今回私たちが目指すのが「パブリックアート」であったため、仮囲いの前を通る不特定多数の人に作品を理解していただく必要があった。しかし通行人にアンケートをとったところ、作品コンセプトの理解がされていないと思われる回答も見受けられた為、自己満足だけの作品製作で終わらせないアイデアを出すことの難しさを認識した。

◆今後の課題・発展の方向性

前回に引き続き、現在都市ギャラリープロジェクトの第2弾を実施中である。その際に第1弾の反省点、課題点を克服しながら展開を行っていかうと試みている最中である。課題点は上記に示したように、作品内容(作品の意味するメッセージ)を多数の人々に理解してもらえるようにする点である。また、メディアを利用しての外部に対する広報をいかに上手く行っていかうかも、課題の一つとして挙げられる。また前は、地域住民と海外住民の間で直接コミュニケーションを図ることができなかった。そこで、今回はワークショップを行う際に地域・海外住民が互いの感性を共有できるように作品制作のプロセスを工夫する。

「街の中心部から活性化」することを目標に、前回の広島駅新幹線口前に引き続き、今回は広島の「へそ」ともいえる紙屋町でプロジェクトの実施に臨んでいる。この場所は広島の人だけではなく、海外から訪れる観光客の人も必ず訪れる場所といっても過言ではない為、さらなる話題性及び活性化の波及効果を生み出せることが期待できる。

◆活動を終えての感想・意見等

1つのプロジェクトを成し遂げることがどんなに至難なことであるのか、を認識した。

また、このプロジェクトは、「私たちだけでは決して遂行できるものではなく、様々な人々の協力の上に成り立っている」という大きな実感を得ることができた。

最後になったが、本プロジェクトの実行にあたり助成をして下さった貴財団に深く感謝を申し上げたい。

活動名 エコ工作教室	団体名	広島環境サポーターネットワーク
	地域	広島県広島市
	代表者	常任幹事 増村 浩子
	支援金額	30万円
活動概要		
<p>人類の課題、地球温暖化。「環境の日ひろしま大会」などの環境イベントのブースにおいて「エコ工作教室」として実施し、廃棄物や自然物を利用した工作を行い、資源の大切さや自然の大切さを学び、もったいないの心を育て、ものづくりの楽しさを体験し、地球温暖化について考えました。また、「出前環境講座」として学校教育や、公民館等においても、牛乳パックやペットボトルなど、子ども達の身近な廃棄物を利用しておもちゃなど使用可能なものを作り、誰にでも参加でき誰でもわかりやすい教室を開き、「ゴミと温暖化」といった身近なテーマで地球環境について啓発運動をしました。そして地球温暖化の仕組みを解りやすく説明し、私たちの暮らしからできる身近なエコライフを推進しました。</p> <p>◆実施時期： 期間：平成21年6月7日～平成22年2月25日（11回） 広島県庁前広場・広島市中小企業会館・イズミゆめタウン広島店・ 広島ビックアーチ・エールエール地下広場・海田町立小学校・広島市立大塚小学校・ 広島市立井口明神小学校・広島市立伴東小学校・亀山児童館</p> <p>◆参加人数： 参加総人員 2,981名（実施回数 11回） （サポーター延人数合計 110名 工作参加者延人数合計 2,871名）</p>		



《カルチャー＆エコフェスティバルinゆめタウン広島》



《給食の牛乳パックから紙トンボ作り》



《小学校環境出前講座 竹笛作り》



《手回し発電機で豆球を光らせ、エネルギー体験》

◆実施に伴う効果

- ①3年続けてマツダ財団から支援を受けて、団体内での活動が盛んになり、備品や道具類が揃い出前講座のバリエーションが膨らみ活動に充実感がありました。
- ②イベント等参加者に工作材料を負担させずに実施でき、たくさんの参加者が増えました。昨年の約2倍近い人が参加しました。
(参加合計人数 平成19年1,605名 平成20年度1,575名 平成21年度2,981名)
 - ・手回し発電によるオリジナルな比較実験機を使って実験をしましたが、参加者に白熱球と蛍光等・LDE電球の差を体感していただき、省エネルギーに関して興味を持ったと思います。
 - ・サポーターが考案したエコ工作作品を展示は、サポーターの工夫力や資質向上にもなり、来場者からたくさんの賞賛をいただきました。
 - ・工作のみならずゴミ減量や地球温暖化問題にも対応し出前講座を実施し、後日いただいたメッセージを少し紹介します。子どもたちの素直な意見を聞くと、環境教育の大切さを感じました。
 - ・そのまま捨てるのでなくリサイクル・エコの大切さを改めて感じました。
 - ・エコマークが付いているものを買って、紙パックやトレイはお店にもっていき温暖化をストップさせたい。
 - ・地球もこれから温暖化が進むと熱くなっていくとスーパーコンピューターは計算していましたが、ぼくはリサイクルなどして地球温暖化を防ぎたいと思います。
 - ・このままでは地球が危ないということが分かりました。私も地球温暖化を止めるために物を大切に長く使います。
 - ・1人1人の心がけが地球を救う薬なのかなと思った。

◆苦勞した点

- ①イベントなどは休日でもあり、参加サポーターを集めるのが比較的容易でしたが、学校における出前講座では、参加するサポーターを集めるのが難しかった。
- ②対応人数の多い学校ではクラス一人に対応するので、負担も大きかった。反対に、我々も時間内に全員を仕上げる指導力UPにもつながりスキルも上達しました。
- ③廃棄物工作で材料等は比較的手に入りやすいものを選び、廃棄に関しても地球にやさしい方法を考慮して作成しました。
- ④イベント等たくさんの参加者がある場合事前準備が必要で、数名に負担がかかってしまった。
- ⑤外部へのPRが不十分で出前講座など数が少ないですが、口コミで広げて行こうと思います。
- ⑥手回し発電機による比較実験で、LDEを使ってオリジナルな比較実験機を作成するにあたり、抵抗などの技術的な試行錯誤がありましたが、プロセスはとても楽しかったです。

◆今後の課題・発展の方向性

- ①3年間で培ったノウハウは大きいものでした。イベントにおいてたくさんの参加者に対応していく技術も工夫もできました。また、サポーターのイベントスタッフ希望者が多く、とても機運がありよいことです。ですが今後は工作材料等やイベント参加費が必要になり、費用調達に工夫しないとなりません。工作参加者から参加費をいただくことも考えられますが、できるだけ工作参加者(子ども)からは徴収したくない気持ちは一杯です。
- ②市民から市民へ…という環境普及啓発ですが、市民の目線で今の地球環境問題を伝え、今できる身近なエコを少しずつ増やし、地球にやさしい行動の輪(環)を広げて未来につなげていきたいと思っています。

◆活動を終えての感想・意見等

- ①3年間引き続きマツダ財団から支援をいただき本当に感謝しています。団体内の道具や備品が増えただけでなく、みなさんが楽しんで活動ができましたし、たくさんの市民の皆さんへ環境保全の普及啓発ができました。ありがとうございました。
- ②紙トンボなど簡単な工作を通して「ゴミ減量や地球温暖化と私たちの暮らし」など課題は大きいけれど、子どもたちの感想を見たら目的を達成しているようです。エコ工作という身近なものですが、地球環境へ目を向けさせるきっかけ作りになったと思います。
- ③初年度購入した「紙すきセット」で、「はがき作り」を今年も実施できました。道具が活動の継続をしている一端だと思います。ありがとうございました。
- ④工夫する楽しさを知りました。また、一緒に作業するなど市民活動の楽しさを味わいました。
- ⑤マツダ財団を通していろいろな団体と交流することもできました。
- ⑥購入させていただいた道具や備品を大切に扱い、マツダ財団の皆さまのご意志を伝えていきたいと思っています。感謝いたします。
- ⑦地球温暖化の現象は少しずつ顕著になってきています。このままでは危ういとみんなが思い始めています。地球環境を良くしようとする私たちの思いをたくさんの市民の皆さんへ伝え、みんなで行っていきたくと思っています。

◆実施に伴う効果

- ・福山大学の環境サークルの人達が参加してくれ、色々と話す中でこれからも出来ることは一緒に是非やりたいと申し出があった。
- ・地元町内会の会長や環境推進委員数名の参加があった。
- ・地元女性会の方が活動を見に来られた。
- ・清掃活動中に漁協の人達と偶然出会い、私達の活動を伝えられたことは大きなプラスになったと思う。

◆苦勞した点

予算面では苦勞しておりましたが、貴財団の助成のお陰で活動の輪を広げる事が出来、大変感謝しております。

PRの面に関しては、新聞記事や口コミが主体となっています。

参加者につきましては、いつも頭の痛い問題ですが、イベントの場合、ワンパターンにならないよう気をつけています。

天候、潮の干満などに左右されることが多々あります。

地域の理解の方は少しずつですが進んでいるように感じております。

◆今後の課題・発展の方向性

私達が目標としている「あさりの棲める干潟をめざして」のキャッチフレーズ、是非実現したい。

かつて誰もがこの松永湾から自然の恵みを頂いていた。今、身近に感じられなくなった海、、実は私達が汚し、近寄れなくしてきました。

漁業者の海、貯木業者の海、〇〇〇〇の海、、、ではなく、“私達の海”なのです。多くの人がこの“私達の海”を自覚することが今後の課題だと思っています。

“かけがえのない松永湾をゴミ捨て場にしてはいけない”この言葉を肝に銘じ！！私達の活動をもっともっと知ってもらいたい。賛同者、参加者を増やし、年に一度、環境フォーラムのようなものを行ないたいと考えております。

◆活動を終えての感想・意見等

子ども達からメッセージに助けられ、色々な生き物に教えられ、まだまだ長く続けていくしかないと思っております。

一緒に活動している高校生が学生代表の一員として、国連本部に行った事は大きな喜びで今後の励みになります。

貴財団からの助成、誠にありがとうございました。

活動名 田んぼの楽校	団体名	広島市ネイチャーゲームの会
	地域	広島県廿日市市
	代表者	運営委員長 住吉 和子
	支援金額	30万円
活動概要		
<p>田んぼから自然を感じ、作物の育つ過程から動植物のふしぎに気づくことや、発見をとおり人間のもっている五感を鍛え、豊かな人間形成を図る目的があります。これら目的は、「田んぼの楽校」を開催し、田おこし、代掻き、田植え、田の草取り、動植物観察、山と海の関係活動、稲刈り、収穫祭などを行いながら体験を行ない、頭・体・肌・聴く・においなど、体全体で感じるものとしています。原体験を大切にしよう取組んでいます。また、親子で体験をしてもらい、家庭内でのコミュニケーションを図るため、共通話題の提供や学校での話題提供などにも寄与するよう配慮しながら、取り組んでいます。</p> <p>◆実施時期：2009年4月19日～2010年1月17日 12回開催 主たる開催場所：広島市佐伯区五日市町下小深川「沖本氏の農地」約700㎡とその周辺、江田島市切串の海岸、広島市安佐動物公園</p> <p>◆参加人数：第一回春を食べよう！23名、第二回代掻きと泥んこ遊び24名、第三回田植えとネイチャーゲーム31名、第四回田んぼの楽校看板づくりと芋の植え付け30名、第五回田んぼの草刈りや交流会など39名、第六回江田島海の生き物観察33名、第七回案山子作りとそうめん流し33名、第八回稲刈り体験とはで干し体験36名、第九回脱穀体験とネイチャーゲーム38名、第十回芋ほりとネイチャーゲーム27名、第十一回餅つきとわら細工33名、第十二回動物園(自然とのつながり)50名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 397名</p>		



《子ども達で草花料理中》



《機械による代掻き体験》



《案山子作成》



《刻んだ藁の中はどうか？》

◆実施に伴う効果

活動組織としては、その効果どおりに参加者の反応が良かったことが最も成果となっている。また、一年を通し農業を体験することにより、農からもらうものの多さには、スタッフも含め参加者全員にもわかってもらうことができとても有意義な一年となった。特に五感をとおし感じるものが多く、情操教育の一環としての役割は果たせたとスタッフ一同感じているところである。また、海や山、動物など幅広く取り組み、多方面から自然を見つめなおすことができた。

地域への影響を確認することができなかった。理想としては、他の組織などのモデルケースとなるよう取り組んでいる。

◆苦勞した点

特に問題なく、当初どおりの計画で実行することができた。ただし、スタッフについて農業者が少ないため、知識のあるスタッフには苦勞をかけていた。雨などは、自然現象の一つであるので、特に問題なく実施できた。外部へのPRは極力控えることにした。理由としては実施農地規模に限界があるためとあわせ、スタッフの対応が不可能であるため。

◆今後の課題・発展の方向性

現在田んぼの楽校は、5年目が終了したところであり、参加者も居残り組が多い。このことから、参加者の入れ替えを行い、広く市民が楽しめるよう配慮する必要を強く実感している。(基本は小学校低学年とし1年生～3年生としている)
また、一部マンネリ化しているところもあり、農作業とネイチャーゲームを組み合わせることが理想であるが、今回もなかなかスタッフ不足のところもあり、難しいところとなった。引き続き多くの人達が田んぼを通し、農業の楽しさ、自然の不思議に沢山触れてもらえるよう進めることとしたい。
また、マンネリ化している部分については、スタッフ不足のところもあり、農業担当者、ネイチャーゲーム担当者と明確にし、それぞれ一日の中での活動を明確にすることを新年度で実践する。あわせて新しいスタッフによるプログラムの再編を行うことを計画している。
発展の方向性では、地域活動とまでもいなくても、可能性は未知数であり、継続していくことが地域を含めた周辺住民の理解を得ることができると考えている。また、学校教育のなかでもネイチャーゲームは普及しつつあることから、農業をとおした教育の現場としても活用してもらえるよう取り組みたい。

◆活動を終えての感想・意見等

一年をとおした活動はとても大変ではあるが、充実感があります。また、農をとおし豊かな人間形成はもとより、田舎にふるさとが無い子ども達にとっては、プチふるさととなったものと感じています。

今回は、ご支援いただき大変たすかりました。ありがとうございました。

活動名 西区ミニ障害子どもまつり	団体名	こすもすの会
	地域	広島県広島市
	代表者	代表 江本 桂子
	支援金額	15万円
活動概要		
<p>1、目的「地域に豊かな文化と遊びを」を願い実施 2、具体的な実施は ①毎月1回を原則に実施(第2土曜日) ②作って遊ぶ。作って食べる。伝承遊びなど簡単な遊びの3つの柱で4～5コーナーをつくり実施 ③主な支援は西区社会福祉協議会、修道大学、文教女子大学の学生、障害者生活支援センターめーぷる</p> <p>◆実施時期：毎月第2土曜日を原則に実施(9:30～12:30) 夢トピア</p> <p>◆参加人数：毎月子どもの参加は20～30名(障害児の参加は15%～30%) ボランティア20～25名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 418名</p>		



《竹とんぼづくり》



《日帰りキャンプ》



《ミニコンサート》



《動物とのふれあい》

◆実施に伴う効果

毎回約40名前後の参加が定着してきています。最近では西区社会福祉協議会からボランティアの参加も増えています。

今後も活動が続けることで、「地域の子どもの交流の場」として根付いてくれることを期待しています。

参加する子どもの中には、ほぼ毎日参加してくれる子どももでていきますので、「毎月第2土曜に“夢とびあ3F”に行けば、色々な遊びがある」と考えてくれて来ている感じがします。少しずつこの「西区ミニ障害児子どもまつり」が定着しつつあるという手ごたえを感じています。

◆苦勞した点

毎回西区内の小学校児童全員と、障害児学級、支援学級、特別支援学校などピラを印刷して配るのが大変でした。

ボランティアで関われる学生が減って来ているので、西区の社会福祉協議会や、知り合いなどで、出来る限りボランティアのご協力をお願いしてきました。

毎回ボランティアの確保には苦勞しました。

毎回の遊びの中で、いかに子どもに作って遊ぶ楽しさを経験してもらえるものを用意するかを真剣に考え工夫しました。

◆今後の課題・発展の方向性

毎月第2土曜日が定着しつつ有るので、今後も継続して活動をしていき、本当の意味で「地域に根ざした西区ミニ障害児子どもまつり」にして行きたい。

ボランティアの確保が毎回課題になるので、近隣地域の方のボランティアへの参加を広げて行きたい。

障害児の参加が少なくなっているので、もっと障害児も参加しやすいまつりを工夫したい。

現在、平成22年5月9日(日)に「200回突破記念・西区ミニ子どもまつり」を企画し、実行委員会を立ち上げて準備を進めています。この機会に西区地域のより多くの方への参加の呼びかけをして、障害児と健常児が共に生活しやすい地域創りに貢献したい。と考えています。

この「200回突破記念・西区ミニ障害児子どもまつり」を成功させ今まで以上に、地域の方々に「西区ミニ障害児子どもまつり」を知って頂き、より地域に根ざした「西区ミニ障害児子どもまつり」にして行きたいと考えています。

◆活動を終えての感想・意見等

1992年から始まったこの活動も早くも200回を突破する事ができました。

沢山のボランティアさんに支えられてここまでこれた事を本当に嬉しく感じています。

そして、参加してくれた子ども達の楽しそうな笑顔が何よりの宝物です。

これからも子ども達の楽しい交流の場として、活動を続けて行きたいと考えています。

活動名 親子わくわく科学教室	団体名	特定非営利活動法人三次科学技術教育協会
	地域	広島県三次市
	代表者	専務理事 寺重 隆視
	支援金額	30万円
活動概要		
<p>都市部と比較して科学技術に関する体験学習の機会が乏しい中山間地域において、子どもと保護者が、ともに科学技術を楽しみ学び、家庭での話題とし、それを通じて子どもたちの知と徳のバランスのよい育成を図るとともに、地域全体で科学技術への関心を高めることを目指した。具体的には、基調講演と参加型ワークショップからなるイベント「子どもと大人の科学の祭典2010」を行った。基調講演では「育てよう、自然を見る眼・自分を見る眼」と題し、広島大学大学院教育学研究科 前原俊信教授にお話をいただいた。</p> <p>また参加型ワークショップでは、「電子工作」、「モータ」、「静電気」、「ロボット」、「つりあい」、「大気と水」、「霧」、「光」、「鏡とレンズ」、「望遠鏡」、「星」、「モデルロケット」、「エントロピー」などに関する実験を行っていただいた。</p> <p>◆実施時期：2010年2月14日(日) 三次市生涯学習センター</p> <p>◆参加人数：基調講演 60名 ワークショップ 235名 フォーラム 15名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 約310名</p>		



《看板》



《エントロピー》



《実験》



《実験》

◆実施に伴う効果

「子どもと大人の科学の祭典2010」は講演や実験ワークショップを含む総合的な科学イベントであるが、この種の企画は、広島県北部では初の試みと思われる。アンケートの結果、このような企画はぜひ続けてほしい旨の記述が多くみられ、興味・関心が高い人が多いことが明らかになった。都市部と比較して科学技術に関する体験学習の機会が乏しい中山間地域において、子どもと保護者がとともに科学技術を楽しみ学ぶ機会を提供でき、家庭において親子と子が科学技術を話題とするきっかけとなったものと思われる。さらにそれを通じて子どもたちの知と徳のバランスのよい育成を図るとともに、地域全体で科学技術への関心を高める機運を醸成できたと考えている。「子どもと大人の科学の祭典2010」の様子は、中国新聞(2010年2月15日朝刊)、NHKニュース(2010年2月14日18時45分ごろ)で放送された。その中では子どもたちのいきいきとした表情が印象的であった。

◆苦労した点

スタッフ全員が、現役の職業人または学生であり、それぞれが時間の捻出や、準備等全員が参加できる日程の確保に苦労した。
(スタッフを支えているのは「科学を愛する気持ち」と「使命感」である。)
外部へのPR、特に小中学生へのPRに苦労した。校長会等を通じ学校へ周知しても、多くの学校で児童生徒に十分伝わっていない。
予想を超える来場者があり、実験の説明に苦労した。(これは嬉しい悲鳴かもしれない)

◆今後の課題・発展の方向性

教員、PTAなど学校教育との連携をさらに進めていき、科学技術分野での確たる「地域の教育力」となるよう、組織を安定的に維持していきたい。
家庭教育における科学技術教育にも目を向け、保護者との連携を深めていきたい。
スタッフの力量をさらに高めるため、組織内部での研修を充実していきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

三次科学技術教育協会(MISTEE)のスタッフは全員現役の社会人、学生のボランティアです。多忙な仕事・学業という日常の中、「科学技術を愛する気持ち」と、それを通じて「地域の教育を活性化したい」という使命感とで、これまでの3年間の活動を進めてきました。今回の行事は、その集大成、という意味もありましたが、成功裡に終わり、参加者、行政、マスコミにも評価していただき、大変うれしく思っています。達成感とともに、自信のようなものもスタッフに芽生えてきたように思います。マツダ財団様には、大変大きな援助をいただき、真にありがたく存じます。物質的援助はもちろん重要ではありますが、同じくらいに「マツダ財団の助成を受けている」という誇りが精神的な支えになった部分もあったと思います。心よりお礼を申し上げます。

活動名	団体名	第34回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会実行委員会
	地域	広島県広島市
	代表者	大会実行委員長 下田 達也
	支援金額	20万円
活動概要		
<p>全国のろうあ者の間に軟式野球を広くアマチュアスポーツ協調精神に基づく健全なる社会の向上及び発展を図り、軟式野球を広く普及し、会員相互を親睦、健康の増進などに寄与し、愛と夢、そして希望を育て、あくまでも公正中立を保ち、もって、ろうあ者野球祭とし、惜しみなく社会貢献を果たすものです。この大会は支部代表として選抜チームを編成し、支部総力をあげて団体日本一を競い合うものであり、輪番制として年に一度、全国各位を回り開催します。</p> <p>◆実施時期：平成21年10月9日(金)～11日(日) 3日間 東広島アクアスタジアム・御建公園野球場・国立大学法人広島大学野球場・ 広大西条総合運動野球場・広島県立西条農業高等学校野球場・ 田口コミュニティ野球場</p> <p>◆参加人数：選手参加 423人・全日本役員7人・役員20人・手話通訳派遣者2人 手話ボランティア23人・協力ボランティア14人 高校野球部スコアラーボランティア16人・プラガード女高生25人 審判派遣者45人・応援者150人</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 725名</p>		



《慣れない入場行進。行進曲を感じ又応援客席に気持ちも引き締まる》



《手話通訳者(東広島市長挨拶)》



《開会式での優勝返還の様子》



《審判には大きい表情での判定の協力》

◆実施に伴う効果

聴覚障害者団体の初めての東広島市での開催。聴覚障害者と初めて接する野球関係者や応援者など聞こえない障害者野球を直に見て頂き、静寂な野球の中にも、白熱した場面での凄みを味わったとみなさんからの声が届いた。又、入場行進は、吹奏楽部の方に来ていただき、入場行進に慣れないチームの行進をした。

開会式に出席された健常者の人たちは、耳が聞こえないのに？という質問が多かったのだが、我々聴覚障害者でも、音の振動で気持ちが高揚し、演奏風景を映像にしながら、チーム一体で入場することは、試合前のチームの心を一つにしてくれた。

通訳関係の広島県手話の会の人たちは、なかなか一度に沢山のろう者と会う機会が少なく、触れ合うこともないのだが、ろう野球を経験してくれとてもいい勉強になったし、ろう者野球をよく理解できたとコメントがあった。又、審判の方にもろう野球では、キャッチャーへの声かけ方法や、身振りを大きくすることで、ろう者に通じることを知っていただき、我々ろう野球への理解をしてくれた。

又、一般の地元の皆様には、大会に参加した選手たちの買い物や食事、宿泊で我々のことを少しでも理解して頂いたことだと思っている。

◆苦労した点

まず、障害者野球の予算において、ろう野球者の会員は社会人であるが、障害者がなかなか就労できない経済状況の中、会員の負担を抑えなければ人数不足で開催が不可能になることに於いて、非常に苦労をした。

次に、健聴社会への、依頼・交渉が大変困難であった。聴覚障害者が健聴社会とコミュニケーションをとる場合、通常は電話ですぐに済むようなことでも、実際に出向いて、筆談で依頼・交渉し、変更があれば、再び出向いて、と言う具合に、多くの労力が必要になる。

それは、開催においての球場確保や準備、後援者への連絡、お願い、宿泊施設、内容は省略するが、総て筆談で行った。筆談であると細かい内容を伝えるのは難しく、時間もかかる。

そして、手話通訳者は通訳者センターへの事前の申し込みをすればはじめて派遣してくれる。又、時給2千円の支払いをしなければならず、とても時間も予算などもない。大事な話しは通訳者を同伴してくれと要望があるが、なかなか時間調整もスムーズに行かず、健聴者社会への交渉の大変さを痛感した。

外部PRは、地元の手話の会などに口コミをすること、又、協賛願である程度のPRはできたのだが、新聞や、映像でのPRをするのに、早めのFAXなどでの連絡をしたが、どうなっているのか様子を見ることができず、早い段階だと、実際に開催する頃には、新聞社も忘れてしまうとの情報を後から得たため、その辺を今後どうしていいのか考える必要がある。

大会当日は、関係者が離れたところにいる場合には、指示を送るのに、とても苦労をした。

開会式において球場内準備をするために離れた関係者に連絡をするには、走ってその部署に行き手話で伝えなければならない。我々の伝達手段が、手話であるからである。

吹奏楽部、旗を掲げる係り、又、来賓者への伝達、すべてに目が行き届かないし、同時作業が出来ない。

又、試合は、6球場へのバス手配をし各球場への選手を送り又迎えに行くのだが、集合には、その選手たちを呼び込むのにも、見える範囲でしかできない。居ない選手は、見つけて肩たたきで選手にしらせる。集合場所も知らせてはあるが、連絡が少しずれたりするともう大変である。時間の関係もあって早く選手を見つけて集合させたいのであるが、たまたまトイレに行っていたりすると、かなり時間をロスしてしまう。選手集合に関しては、かなり苦労した。

◆今後の課題・発展の方向性

早めの準備と、連絡方法などをよく考え話し合う必要がある。

より多くのろう者に野球の面白さを伝え、又、手話で学ばない学べない環境であるがため、これからは、手話で学べる野球の技術やルールを教える人材の育成や教室を開き、ろう野球の向上に努めたい。

又、健常者野球との交流の場を作り、我々とのコミュニケーションを図りたい。

そして、手話ができる野球関係者が増えてくれるように、我々ももっと、社会へろう野球をPRしていきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

聴覚障害者団体のろう者に日ごろコミュニケーションができない仲間と同じ場所で競い合い、又友情も深めたと感じている。

広島実行で初めての開催地で不安があったが、無事、終了できたことが、なによりである。

しかし、たくさんの事を勉強した大会でもあった。より深く聴覚障害、コミュニケーション障害の弊害をどうしたら少しでも緩和できるのか難しいことでもあったが、大会実行に関わることで、経験した。

活動名	友楽タイムおいでよわせだっ子	団体名	早稲田学区青少年健全育成連絡協議会
		地域	広島県広島市
		代表者	会長 石飛 正博
		支援金額	15万円
活動概要	<p>学校週5日制導入のもと、地域での子ども達の受け皿として、何かきっかけづくりができないものかと考え、早稲田小学校区内の地域団体が協力しあった、平成14年度から子どもの居場所づくりを目的に、早稲田公民館を中心に仲間づくりとして毎月2～3回、年間30回程度(原則土曜日午前10時～12時)小中学生を対象に開催しています。</p> <p>学び、語り、遊び、運動、体験学習等をテーマに様々な企画を行い、地域の大人と子ども達がふれあい、地域の教育力を向上させ安全、安心なまちづくりに地域住民の総力を集結し、青少年の健全育成に寄与することを目的に活動しています。</p> <p>◆実施時期：平成21年4月1日～平成22年3月31日 主たる活動場所は早稲田公民館</p> <p>◆参加人数：小学生995名、中学生103名、幼児155名 その他(保護者等)231名 ボランティア183名 指導者107名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 1,774名</p>		



《友楽マラソン大会》



《雪遊び》



《伝承遊び》



《積み木遊び》

◆実施に伴う効果

この事業を行なって8年になり、地域にすっかりなじんでおり、子ども育成にはなくてはならない団体となり、今衰退ぎみの子ども会にも活力が出てきました。さつまいもの苗植えから収穫、焚き火で焼き芋で体験学習、積み木遊びで幼児と保護者、地域住民との交流が深まりました。もみの木森林公園の雪を10tトラック2台で運んで、雪のすべり台、雪合戦、雪だるま、かまくらづくり等で雪での体験をするなど友楽タイム事業が学区全体の底上げとなり各団体のリード役となっている。

この事業で最大の友楽タイムマラソン大会は、小中学生はもちろん、地域住民の参加者も回を重ねて増えてきました。旗をふっての沿道での応援がコースのあちこちで大きな声となって参加者にファイトをかきたて、地域全体のマラソン大会となり、400食の豚汁をみんなで食して大満足。地域全体が一つとなり、まちづくりの一役を担い、多くの方々に感動を与え感謝されています。

◆苦勞した点

年間事業計画をたてる際、諸団体とのスケジュール調整し計画を立てる必要がある。小学校PTAを通じて事業のお手伝いをお願いするとき、友楽タイム事業の趣旨が理解できていない。新役員、保護者がありPR不足もあったようだ。通例の地域内の行事や諸団体に配慮し、特に日程には注意した。無理なお願いは極力避け、できる範囲のことをお願いした。月1回の諸団体との定例会(社会福祉協議会常任理事会)で報告、調整を密にした。

◆今後の課題・発展の方向性

野外体験や農業体験といった自然体験活動、年齢の異なる子ども達が交流する活動、自分達の住むまちを再発見、伝統文化を学ぶ活動、坂道を逆手にとって体力作り、ウォーキングマップ作りや、マラソンコースマップ作り等でまちづくり。子ども達が主体となって企画運営したり、これまでの活動の幅を広げるために新しい活動を始めたり、地域団体が連携してその活動を支えるなど特色ある事業を実地し、子ども達に思いやりのある心や豊かな人間性など「生きる力」を育むため、地域ぐるみで青少年健全育成を図る。新しい指導者の育成も今後の課題である。

◆活動を終えての感想・意見等

事業の企画実施にあたり、多くの団体や地域ボランティアの協力が得られ、子どもの健全育成を通じた地域コミュニティ構築のための礎ができた。マツダ財団の支援金をいただき、これまで取り組むことができなかった事業ができました。

今後ともご支援をよろしくお願い致します。

活動名 みて！みて！平和のでっかい絵	団体名	社団法人 広島青年会議所
	地域	広島県広島市
	代表者	理事長 松田 哲也
	支援金額	20万円
活動概要		
<p>広島に暮らす子ども達に、平和への想いや願いを自由な発想のもとで「でっかい絵」として表現してもらいます。この継続してきた事業を繋ぐことにより、子ども達がいつまでも続く平和への願いを胸に感じることができ、国際平和都市広島が平和への願いあふれる街になり、さらにそのメッセージを世界に発信し続けていくことを目的とした活動です。</p> <p>◆実施時期：①趣旨及び制作説明会 事業開催日時 2009年5月16日(土)13:00～15:00 ②展示期間(広島本通商店街・広島金座街商店街) 事業開催日時 2009年8月1日(土)0:00～21日(金)20:00</p> <p>◆参加人数：公募による参加校の子ども達 約3,000名 広島本通商店街・広島金座街商店街を訪れる市民 約1,050,000名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 1,053,000名</p>		



《広島市立似島小学校》



《本通商店街》



《広島市立安小学校》



《広島市広島特別支援小学校》

◆実施に伴う効果

参加された広島市内31校の小学生が、「平和」について考えながら絵として表現していく中で、今日の家族や友人達と普通に笑って生活できる尊さを強く感じながら絵として描いたことにより、いつまでも続く「平和への願い」を胸に感じてもらうことができました。そして、そのこども達の「平和への願い」が込められた絵を一枚一枚繋ぎ合わせることで、「でっかい絵」としてこども達の想いを大きく表現することができました。

そして、こども達の強い「平和への願い」の込められた「でっかい絵」を広島の中心部である広島本通商店街、広島金座街商店街に展示させて頂いたことで、こども達の「平和への願い」を多くの市民に発信することができました。また、広島に暮らす人々はもちろん、広島を訪れて頂いた多くの方々が一瞬でも立ち止まり見て頂くことで、こども達の「平和への願い」を感じて頂き、平和への意識を高めて頂くことができました。

◆苦労した点

趣旨説明会において絵の提出期限厳守のお願いが不十分であった為、数校が提出期限を過ぎても作成できておらず、次の工程に若干影響が出てしまいました。製作期間中、参加校の先生方に進捗状況を確認すると同時に、再度提出期限厳守のお願いをする必要がありました。

◆今後の課題・発展の方向性

過去参加して頂いた小学校の先生方から、「今年度は平和学習会のような内容はありますか。」との問い合わせを頂きました。今年度は事業計画に取り入れていませんが、この事業をより意義深くするためには、小学校の先生方とも意見交換を行い、平和学習を行うことも検討することをお勧め致します。広島本通商店街振興組合、広島金座街商店街振興組合の方から、「近年海外の方が多く訪れていらっしゃるの各小学校のタイトルに英文字の表記を入れることは可能ですか。」とご意見を頂きましたので、検討することをお勧め致します。

◆活動を終えての感想・意見等

今年度、第11回「みて！みて！！平和のでっかい絵」～平和への願いあふれる、みんなの街～の事業を開催させて頂き、多くのことを学ばせて頂きました。

募集期間中、実際にこども達がでっかい絵を作成していく様子を拝見させて頂きながら、こども達同士が「絵」を描くことを通じてそれぞれが同じ目線、また同じ心で会話し平和を描く姿を目の当たりにすることにより私自身が忘れていた「平和への願い」を思い出させて頂くことができました。

また、初めて参加する小学校の方は特殊な絵の具の為、「最初は戸惑う様子も見受けられましたが、徐々にこども達同士で意見交換をしながら、絵の具の特徴を掴み描いている様子は、平和への願いだけでなく、こども達同士で考え話し合うことにも繋がっている。」とのご意見を担当の先生から頂戴致しました。実際に描いているこども達から、「私達は班のみんなで描くことにより協力する大切さを学び私達の描いたこの絵を見て、私達の考える平和を伝え、みんなで手を繋いで助け合って平和を考えたい。」という言葉聞かせてもらいました。

こども達一人一人が「平和への願い」を胸に絵を描き、その想いが一つの「でっかい絵」となって完成した作品を見て、心より感動を得ることができました。

これからもこども達にこの平和な環境を引き継ぐ為にも、私達が平和への尊い願いを持ち続け、次世代へのこども達に平和のバトンを繋ぎ、64年前に原爆で廃墟になったこの広島から平和を発信し続けることが必要だと考えます。また広島に暮らす私達が率先して社会を守り続けることが必要と考えます。

最後になりますが、財団法人マツダ財団様にお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

◆実施に伴う効果

体験取材では、普段なかなかできない貴重な体験を子どもたちにさせることができた。今年度は、貴財団からの支援をいただき、予算に余裕ができたので、材料費がかかる焼き物作りも体験できた。

イラスト展では、紙面の都合で掲載できないイラストも含め、応募いただいたイラストを全て展示することができた。イラストを描いた子どもたちに喜んでもらえた。また、イラスト展の会場となった田町商店街には子どもたちのイラストを見るために保護者が訪れ、商店街を賑わすことができた。

◆苦勞した点

参加者の募集方法…イラスト展の準備を参加しやすい夏休み期間中に設定するなどの配慮をしたが、参加者がなかなか集まらなかった。10月25日に行った体験取材は、同日に大きなイベントが開催されたこともあり目標としていた人数の半数しか集まらなかった。

外部へのPR…ケーブルテレビなどで紹介していただき、より多くの人にイラスト展を見に来ていただくためのPRを行ったが、展示とあわせてイベントを行うなどより多くの集客方法を検討したい。

◆今後の課題・発展の方向性

子ども編集スタッフのメンバーが減少、固定化しているため、新しい会員を増やす必要がある。今後も子ども情報誌「あ.そ.ぼ.」の発行を通じて、子どもたちが一生懸命描いたイラストの紹介や地域の紹介を続けていきたい。

規模は縮小されるが、来年度以降もイラスト展やパネル展示を開催し、子ども編集スタッフの活動を紹介したい。

◆活動を終えての感想・意見等

子ども情報誌「あ.そ.ぼ.」は発刊から10周年を迎えました。これまでは予算上の制約から活動も制限せざるをえない状況でした。このたび、支援をいただいたおかげで、萩市内のいろいろな場所を取材にうかがうことができました。また、紹介できなかったイラストもイラスト展を開催し紹介することができました。1年間有意義な活動を行うことができたのは貴財団のおかげです。ありがとうございました。

活動名 非行少年の更生と福祉に関する諸活動	団体名	山口少年友の会
	地域	山口県山口市
	代表者	会長 石村 太郎
	支援金額	15万円
活動概要		
<p>一言でいえば「家庭裁判所に協力して行う非行少年の更生と福祉に関する実践活動」ということになるが、内容は以下のとおり多彩である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 家裁や関係機関における非行少年取り扱いの実情や非行理解のための研修活動 2 保護者がいないなど家庭不遇の非行少年に対する親代わりの付添人活動および福祉的経済支援活動 3 家庭裁判所が行う再非行防止のための教育的活動に対する支援活動 4 会員への意識高揚、知識伝達等および他の会との間の活動情報交換等のための広報活動(広報誌発行等) 5 他の会との情報、意見交換のための懇談会(中国地区と全国の2回) 6 会運営のための総会、理事会、各部会等の開催 <p>◆実施時期：2009年4月1日から2010年3月31日の間 主として山口家庭裁判所内であるが、付添人活動では山口少年鑑別所に出向くことが多く、また研修では現地施設見学等もある。</p> <p>◆参加人数：129名</p>		



《家裁調査員との意見交換会》



《児童相談所見学》



《保護観察について研修》



《全国50会に送付した広報3,4号》

◆実施に伴う効果

本会の活動は、日常活動をする普通会员の会員資格が裁判所調停委員(元職を含む)に限定されており、活動の中心が家庭裁判所への協力となっているので、一般市民に公開された活動にはなりにくい特徴がある。したがって、活動は家庭裁判所の理解と信頼が前提となる。その意味ではこの一年間の活動は活動量が増え内容もより深く非行少年に関わるようになってきていることから、活動の効果は上がっていると言える。各種活動を行う中で、会員による活動への理解も深まり、より多くの会員が活動に従事するようになってきている。対外的には、弁護士会、少年鑑別所、保護観察所、児童相談所、児童自立支援施設、市社会福祉協議会等の関係団体からの理解も深まっている。養護施設の児童が高校進学するに当たり児童相談所から、以前その児童の付添人を担当した友の会会員2名に激励の面接を依頼された例があった。

◆苦勞した点

[予算]

予算の確実な原資は会費のみであり、あとは不確定な寄付に頼っている現状なので、運営に苦勞する。単年度で見れば、ときに赤字決算となる恐れもあるので、支出の抑制と寄付の勧誘に努めている。付添人活動費用については付添件数が不確定であり予算見積もりに苦勞する。

[外部へのPR]

少年友の会の活動は守秘義務を伴う活動が多く、ほとんどの活動は会員の範囲で行われている。したがって外部にPRして行う活動は今のところない。他のボランティア団体には当会の紹介をする程度にとどまっている。

[参加者]

会員100名程度の内訳は賛助会員(資金援助会員)20名程度、普通会员(活動会員)80名程度であるが、普通会员のうち30名程度が元調停委員で高齢者となっており実際の参加は限られる。したがって実働会員は50名程度となるが、自営職業者も含まれているので実際に活動する会員の数は30名以下となっている。結局一部活動会員に過重な負担がかかりやすいのでいかに活動を会員に広げるか苦勞がある。

[地域の理解]

会員には地域でいろいろの活動をしている者も多いので、それらを通じて少年友の会の活動が知られ、理解されつつある。研修講師に地域の有識者を招いたり、関係機関の研修、見学等の機会に当会の説明もするので理解は進んでいる。'10年4月からは山口市ボランティア連絡協議会に加入するので、当会の理解が一層進むと思われる。

◆今後の課題・発展の方向性

[活動]

活動がまだ限られた分野にとどまっているので、さらに家裁講習への協力度を高めるとか、社会奉仕活動への取り組みをすとか課題は多い。

[研修]

活動を広げるためには会員の活動能力を養成することが前提であるので、さらに活動の実際についての経験を踏まえた勉強会、研修会などを充実する必要がある。

[予算]

活動資金の安定的確保については難しい問題があるが、会員数の増強や寄付金の勧誘などが基本になる。ただ、当会はボランティア団体であり、活動の基本は無償奉仕活動であるので、支出を切り詰め健全財政を図る努力が必要である。

[発展の方向性]

当会は家庭裁判所の業務の上に活動が成り立っている部分が多いので、常に家庭裁判所と連携を取り、家庭裁判所からの援助要請にいつでも応じられるように会としての力量を蓄えておく必要がある。同時に、非行防止や再非行防止に向けての当会として独自活動を工夫し、地域とも連帯できる活動を求めて行く必要がある。

◆活動を終えての感想・意見等

当会が発足して実質2年目において思いがけずマツダ財団からの支援を受けることができ、会員一同どれだけ大きな喜びと励みを受けたか計り知れないものがあった。当会は継続的な活動であり、これからの課題も多いが、今後とも非行少年の更生・福祉という社会の下支え的活動を地道に続けて行きたい。引き続きのご理解とご支援をお願いしたい。

活動名 わくわく土曜塾	団体名	長門市中央公民館事業企画運営委員会「わくわく土曜塾」担当
	地域	山口県長門市
	代表者	運営委員長 林 義高
	支援金額	10万円
活動概要		
<p>地域市民の英知と善意を結集して「私たちの公民館づくり」を推進する「長門市中央公民館事業企画運営委員会(民間組織)」の事業の1つとして開催してきた。</p> <p>目的は、</p> <p>①土曜日の子どもの安全・安心の確保 ②子どもたちの規範意識の醸成 ③学校教育活動の補完の場 ④親の子育て支援などである。</p> <p>平成21年度は年間46講座を開催した。この講座の指導者の中心は、本公民館に集う社会教育関係団体(グループ)であり、公民館で学んだ生涯学習を子どもたちのために生かす活動としてボランティアで実施してきた。(講座によっては外部指導者も加わった)</p> <p>◆実施時期：2009年4月11日(開講式)～2010年3月13日(閉講式) 長門市中央公民館を中心に公園、深川小学校、ルネッサながとの会館などを活用</p> <p>◆参加人数：○コーディネータ延べ 180人 ○講座指導者延べ 60人 ○受講者(塾生) 多様な体験570人・英語125人・囲碁128人・ スポーツ230人 延べ1,056人</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 1,293名</p>		



《ソーメン流し》
(竹で箸とお椀を作ってソーメンを食べる)



《俳句を作る》



《魚料理(いかをさばく)》



《日本の芸術に親しむ(謡曲・詩吟・民謡)》

◆実施に伴う効果

・講座を受け持って指導する側が逆に教えられたり、元気をもらったりで、こんな楽しいことならまたやってみたいと言う人が多くおられた。これらの方々は今後一層ボランティア活動へと向かうことが予想される。

・保護者のアンケート結果などから目的はクリアできていると思っている。指導するグループからも「子どもたちから逆にエネルギーをもらって大変うれしい」と好評であり、この方向からも効果があったと思っている。

・公民館利用団体の皆さんから街中で塾生の方から声を掛けて来てくれたという喜びの声を聞き、顔の見える地域作りに一役買っていると感じられる。

◆苦勞した点

・今年度で3年目を迎えた。『わくわく土曜塾』も認知度が上がり、公民館利用団体に講師をお願いしてもスムーズに快諾を得ることができるようになったが、詩吟、謡曲など講座によっては講師の苦勞もあった。

・第4土曜日のジュニアスポーツはスタッフの数も少ないことから30人の定員で募集したが倍近い希望があった。今年は第3土曜日を家庭の日と考え行なわなかったが、来年度は第3土曜日にもスポーツ系を取り入れたいと思う。

・次回の変更がある時など1ヶ月前から準備をし、なるべくその場でお知らせできるようにした。遅れた時は葉書でお知らせした。

◆今後の課題・発展の方向性

今後も公民館利用の社会教育関係団体と連携し、子供達にいろいろな体験をさせたい。その活動の中で指導者、コーディネーターなど大人を敬うことや一生懸命に取り組むことなどを教え、異年齢との交流の中で自信をつけてくれると期待します。

◆活動を終えての感想・意見等

価値ある取組みとして充実感がある。創業時から3年間支援していただいたおかげで運営等軌道に乗せることができました。

貴財団に感謝しています。ありがとうございました。

活動名 美祢市子連ジュニアリーダーズクラブ於福支部事業	団体名	美祢市子連ジュニアリーダーズクラブ於福支部
	地域	山口県美祢市
	代表者	会長 白井 優士
	支援金額	10万円
活動概要		
<p>子ども会の健全な育成のため協力・援助しよりよい環境を作ると共に、会員自らの資質向上と相互の友好をはかることを目的とし、於福町で開催される、ふるさと祭り、十三夜祭、田代夏祭りへの出店等、各種行事への参加協力等を行っている。</p> <p>◆実施時期：2009年4月1日～2010年3月31日 主に於福町内</p> <p>◆参加人数：お福ふるさと祭り(800名) 市民総社会参加活動(24名) お福十三夜祭・田代夏祭り(600名) 町民運動会(800名) クリスマス会(86名) 冬季スポーツ教室(108名)</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 2,418名</p>		



《於福駅清掃活動・花植え》



《町民運動会》



《クリスマス会》



《十三夜祭、田代夏祭り》

◆実施に伴う効果

- ・役員と参加者(子ども)の間に、ジュニアリーダーが入ることにより、大人と子どもの架け橋となって、行事がよりスムーズに実施されるようになった。
- ・ジュニアリーダーの様々な行事への参加は、地域に活気が出ると喜ばれている。

◆苦勞した点

会員が、中高生で、少人数のため、行事やそれに伴う会議等と学校関係の部活の大会等が重なってしまうと、参加できる会員も少なくなり、活動自体も難しくなるので、会員と学校、地域行事のスケジュール調整に苦勞した。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・ジュニアリーダー会員の増加。
- ・ジュニアリーダーとしての自覚、意識のさらなる向上。

◆活動を終えての感想・意見等

この度、支援金を頂いたことにより、活動の幅が広がり、充実した活動を行うことができました。ジュニアリーダー会員一同大変感謝しております。

誠にありがとうございました。

活動名	団体名	NPO法人シンフォニーネット
「療育に関する事業(キラキラ☆キッズ)」 「余暇支援及び生活支援に関する事業 (キラキラ☆クラブ)」	地域	山口県下関市
	代表者	理事長 矢野 一磨
	支援金額	30万円
活動概要	<p>ボランティアと一緒に個別から小集団での活動を行う。学童部(キラキラ☆キッズ)では対象児により細かい支援を行い、人間関係を基にした療育を行うこと・兄弟児に安らぎの場を提供することを、学生・青年部では社会性を身につける、街に繰り出すことで地域に理解・支援の輪を広げていくことを目的としている。これらの活動は専門家のアドバイスを頂きながら、ボランティアが支援を行っている。活動を通してボランティアの養成を図り、地域と積極的に関わることにより、青少年の自主的活動を助長し、青少年の育成に寄与しようとするものである。</p> <p>◆実施時期：21年4月～22年3月にかけて毎月一回市内及び近郊にて活動実施。</p> <p>◆参加人数：キラキラ☆キッズ…子ども:101名、ボランティア:103名、保護者:58名 キラキラ☆クラブ…子ども:82名、ボランティア:57名、保護者:58名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 459名</p>	



《バスを待つ間》



《クリスマス会にて》



《キッズお芋堀》



《クラブ調理》

◆実施に伴う効果

他団体という訳ではありませんが、当法人の活動がきっかけでボランティア活動に目覚め、自分の地域で新たにボランティア活動を展開する学生がいたり、学生時代に活動に参加したことで保育士・教員を目指すようになり今春から教育現場で働き始めた方たちがいます。既に専門職として働きながらボランティア参加してくれる社会人もいます。

初めてのボランティア参加時には自信なげに戸惑っていた学生が、活動を続けるうちに自信を持つようになり子どもたちと活動する時も生き生きとした様子で「また次回も参加します」と笑顔で帰っていくようになります。友人を誘って参加してくる学生もいます。

そのこと自体は小さいことかもしれませんが、この活動を続けていくことで若者が夢や希望・自信を見出し、ひいては立派に社会に巣立っていく姿を見られることはとても幸せなことだと思っております。

◆苦労した点

・ボランティアの確保には苦労しました。交通費(一律)は支払いますが、いわゆる無償ボランティアですので、特に大学生などはアルバイトがあったりと個々の事情があるようです。そのかわり、参加してくれるボランティアは熱い思いを持っている(持つようになる)方が多かったように思います。対象児(発達障害児)が圧倒的に男性多数でしたので特に男性ボランティアの確保に苦労しました。

・外部へのPRは下関市内の高校・大学・専門学校及び近隣(県西部)の大学にボランティア募集のチラシを配布している。その他ホームページに掲載、ボランティア登録者にはボランティア事務局より毎月案内メールが送信される。

・当法人では他事業として啓発・講演会・勉強会などを行っている為、法人の様々な活動については少しずつ地域理解が進んでいるように思う。

◆今後の課題・発展の方向性

・ボランティアの確保があります。これは地元大学の「ボランティア学」の実習生受け入れ先となっていますので、ある程度は確保されますが、まだ足りないのが実状です。当法人の認知度を高めてボランティア活動への理解を深めていくこと、ボランティア募集の対象地域を広げていくことを検討しています。

・地元大学の「ボランティア学」授業に年2回「出前講座」を行っています。学生さんたちの評判もよいので、他の大学などへも繋がっていかないと検討中です。

◆活動を終えての感想・意見等

活動準備など大変なことは多々ありましたが、やはり活動後に子どもたち・ボランティアの笑顔に接すると「頑張ってたかった」と思います。

ボランティアが活動後の感想によく「○○君が楽しそうで私も楽しくなりました。○○君に元気してもらいました」と書いているのですが本当にその通りだと思います。

子どもたち、ボランティアが保護者にまた笑顔と元気をくれているのだと。小さな幸せの輪がこうやって広がっていくといいなと思っています。

貴財団の助成のお陰様で一年間無事に活動を行うことが出来ましたことを心より感謝申し上げます。

活動名	団体名	岩国科学をたのしむ会
	地域	山口県岩国市
	代表者	代表 原田 広子
	支援金額	20万円
わくわく科学SUMMERフェスティバル2009		
活動概要		
<p>目的:「岩国科学をたのしむ会」は、仮説実験授業(板倉聖宣提唱)を受けることで、科学の楽しさをより多くの子どもたちや大人に味わっていただくために毎月第3土曜日の「わくわく科学クラブ」を行っています。一昨年度から夏休みのイベントとして「わくわく科学SUMMERフェスティバル」を開催しています。2年続けて開催した夏休みの「わくわく科学SUMMERフェスティバル」が大変好評で、お盆に開催した昨年より高学年や中学生の参加者も増えました。今回も幅広く子どもたちや大人に科学の楽しさを、満喫していただけたと思います。</p> <p>内容:お盆の丸一日、科学の授業(仮説実験授業)をじっくり受けていただき、また、昼食後は、ものづくりを楽しんでいただきました。</p> <p>◆実施時期: 2009年8月16日(日) 岩国市中央公民館</p> <p>◆参加人数: 低学年A:24名、低学年B:22名、中学年C:31名、中学年D:23名 高学年E:17名、高学年F:14名、大人:1名、ものづくり:170名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 308名</p>		



《もちもちウィンナー》



《ものづくり会場風景》



《皿まわし》



《高校生による分子模型作り指導》

◆実施に伴う効果

1. お盆に開催したことで、日頃はクラブ活動などで参加できない高学年の子どもや中学生の参加があった。
2. 過去にわくわく科学クラブに参加してきた中学生・高校生・大学院生・大人たちが、積極的に協力してくれた。
3. 今回の受講者の多くから来年も開催してほしいという声があった。
4. 参加した地域の子供たちから、来年も是非開催してほしいという声があった。
5. 参加した子どもたちの中に2学期からの「わくわく科学クラブ」に参加した者があった。
6. 参加した子どもの保護者から、来年はスタッフとして参加したいという申し出があった。
7. 参加者から他の地域でも開催して欲しいという声があった。

◆苦労した点

〔予 算〕

- ①今回は、一日開催としたが、高学年の講座を1つ増やし、経費的には割高になった。
- ②経費節減のため、印刷は、教育委員会に依頼してスタッフで行ったが、かなりの時間的負担になった。
- ③教育委員会の学校あて送達箱で各学校へ配送したため、配送費用が削減できた。
- ④教育委員会共催であったため、会場費が押さえられた。

〔外部へのPR〕

- ①各マスコミにチラシを送った。中国新聞社には昨年同様に後援を頂き、当日、取材に来られた。
- ②市内各小学校及び中学校の全児童・生徒に配布した。
- ③県内の主な市に会員の口コミでチラシ配布を依頼した。
- ④ポスターを公民館や図書館、出張所などに掲示した。

〔会 場〕

お盆で他の行事がなかったため、昨年会場とした中央公民館が全館予約ができた。

〔講師等の確保〕

お盆の開催なので、講師、スタッフの確保が難しく、1日のみの開催に変更した。
また、昨年同様原則講師二人体制とし、負担の軽減を図った。

〔参加者の安全〕

参加者の安全確保のため、各講座に経験のある講師・アシスタントを配置した。

〔地域の理解〕

中央公民館の駐車場が狭かったので、道路向かいの小学校のグラウンドを借りた。

〔行政の協力〕

教育委員会に共催していただき、印刷、チラシの学校配布、公民館の使用料の軽減等経費の削減に協力していただいた。

◆今後の課題・発展の方向性

今後の課題： ①部屋数を確保できる安価な開催会場を確保することについて
②助成がない時の参加費について
③教育委員会の共催について

発展の方向性： ④来年も今年と同規模のイベントを開催したい。
⑤開催時期は、日頃にクラブなどで参加できない子どもたちにも受講して欲しいのでできるだけお盆に開催したい。(スタッフの確保が可能であれば)
⑥助成金等を探し、安価な参加費としたい。
⑦開催会場の確保について。
⑧教育委員会共催について。
⑨他地域での開催も含め、複数回の開催の検討をする。

◆活動を終えての感想・意見等

今年も貴財団の助成をいただき、参加者に大きな負担をお願いすることなく、このイベントを無事に終了することができました。これから、夏のわくわくとして地元に着し、科学が個人の楽しみごととして音楽や演劇などのように時間を作って行きたい場になるといいと思っています。

今年も、参加した子供や大人たちの、科学を満喫し、楽しさに浸ったという満ち足りた笑顔を見ることができました。講師やスタッフも、この場に居て、楽しんでくれている子どもらと授業やものづくりの時間を共有することが元気の元になると言ってくれ、主催して嬉しい限りです。

貴財団からの助成により、十分なスタッフと遠方のベテラン講師を招くことができ、このイベントが参加者にもスタッフにもより充実したものになったことを感謝します。

活動名 ホタルの夕べ	団体名	富海をホタルの里にする会
	地域	山口県防府市
	代表者	会長 平田 豊民
	支援金額	20万円
活動概要		
<p>富海は、海と山に囲まれ、気候も温暖で交通の便もよく住みよいまちですが、一方、近代化の波により道路や河川の改修等で自然の生態系が守れなくなっているのが現状です。近年、人間社会と自然との調和が叫ばれており、自然の美しさを後世に残していこうと、山系から流れる澄んだ水に着目し、ホタルの生息が生態系の指標とされるため「ホタルが飛び交うまちにしよう」とボランティア活動の有志により平成10年に会が立ち上げられた。この会は、発足後、ホタルの生息調査を始め、川の清掃整備、幼虫角育小屋の設置、冷却水をくみ上げるボーリング工事の施行、児童によるカワニナ採取や幼虫の放流等の活動を積み重ねてきました。その成果が現れたのか、ここ数年ホタルが優雅に飛び交う姿が見られるようになり、会の発足10周年を期に、平成20年から「ホタルの夕べ」を開催している。イベントとしては、ホタルウォッチングを前に、こども広場、演劇、飲食コーナーを行い地域コミュニティの触れ合いの場を広げ、まちの活性化の一環としている。</p> <p>◆実施時期：平成21年5月23日(土)17時30分～20時30分 富海老人憩いの家</p> <p>◆参加人数：地区内参加者360名 地区外参加者30名 共催団体役員32名 協賛団体会員28名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 450名</p>		



《第2会ホタルの夕べ》



《カワニナ採集》



《ホタルの幼虫の放流》



《ジャグリングで遊ぶ》

◆実施に伴う効果

富海は小さなまちで、ボランティア「朝日若10人集」が例年夏祭りを行なっていたが、高齢化などの事情で4年前から中止となった。ホタルの夕べを開催する場所は、この神社の近くで、この夏祭りの代りとなったのか、地域の賑やかさや触れ合いの場を取り戻した効果があった。

ホタルの夕べを計画した時は、はじめてのことでもあり、来場者の人数が予測出来ず各種団体の役員だけでも楽しもうと始めた。

結果として、ホタルの夕べには、物珍しさもあったのか300人を超える来場者があり、「楽しかったよ。ホタルがきれいだったよ」の声が返ってきた。

活動が関連する団体等に与えた影響は、まずやれる人で無理の無い範囲でイベントを計画し、そしてやってみよう、つまり実行力がいかに大切かを共通認識し、連帯感を育んだことが大きいと思われる。

次に、どんど焼きの行事は、現在富海中学校・育友会だけで行なわれているが、近年、生徒数も減少しているため、今年から各種ボランティア団体がぜんざいの接待や火の後始末などを協力して地域行事を支えるなど相乗効果が感じられる

◆苦勞した点

ホタルの夕べを毎年開催することになりましたが、ボランティア活動でイベントが出来る地元の団体に限りがあり、外部団体を要請すれば予算面で課題が多かった。

◆今後の課題・発展の方向性

(1) ホタル生息地の保護対策について

今年7月の集中豪雨により、ホタル生息地の川底の土砂が流され、ホタルの幼虫が影響を受けたと思われる自然増には、4～5年かかると予測している。

今後、自然増を期待しながら、その補完対策として幼虫の飼育数の増加が必要となる。

また、餌となるカワニナの増殖や放流を考えなければならない。

次に、ホタル生息地の清掃整備は、欠かせないもので関係者のみならずクリーン作戦として暗広く展開していかなければならない。

(2) ホタルの夕べの今後のあり方

今後は、イベントを開催するにあたり、スタッフの募集、また、地域住朗らがイベントに参加することが地域コミュニティの輪を広げることになり要請していく必要がある。

◆活動を終えての感想・意見等

「第2回ホタルの夕べ」を開催したが、今年は、マツダ財団さんからの協賛を得ることができ、夜のイベントに欠かせない提灯や飲食コーナーにレクレーション用机を購入でき華やかな催しを行なうことができた。多くの団体から支援をいただくことが会の運営の励みになった。

第25回(2009年度) マツダ財団市民活動支援 贈呈式



《広島県》



《山口県》



《広島県福山北警察署管内少年補導協助手連絡協議会》



《こどもの広場実行委員会》



《東区障害児のためのサマースクール》



《邦楽グループ 城友会》



《羽和泉みどりの少年団》



《晴海町・青壮会》



《大道山竹炭工房》



《大学環境ネットワーク協議会》



《こども琴クラブ》



《ART PARTY実行委員会》



《段原地区町づくり協議会(猿猴川河童まつり実行委員会)》



《加計小夢配達人プロジェクト 安芸太田実行委員会》



《北広島町夢配達人プロジェクト実行委員会》



《NPO法人うたしの会》



《府中町手をつなぐ親の会》



《こどもステーション》



《広島市立大学都市ギャラリープロジェクトチーム》



《広島環境サポーターネットワーク》



《環境市民ネットまつなが》



《広島市ネイチャーゲームの会》



《こすもすの会》



《特定非営利活動法人三次科学技術教育協会》



《第34回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会実行委員会》



《早稲田学区青少年健全育成連絡協議会》



《社団法人 広島青年会議所》



《萩子ども情報センター協議会》



《山口少年友の会》



《長門市中央公民館事業企画運営委員会「わくわく土曜塾」担当》



《美祢市子連ジュニアリーダーズクラブ於福支部》



《NPO法人シンフォニーネット》



《岩国科学を楽しむ会》



《富海をホタルの里にする会》

マツダ財団青少年健全育成市民活動支援

第24回(2008年度)

活動名	団体名	地域
レクリエーション及び野外活動に関する技術の普及並びに指導者ボランティアの育成、技術向上を目的とした研修講座	施設ボランティア野外活動研究サークル「くわがた」	広島県広島市
こどもの広場	こどもの広場実行委員会	広島県広島市
東小学校通学路清掃・環境まつり・農業体験	府中町府中東小学校区公衆衛生推進協議会	広島県安芸郡
おいもでつなぎ広げる地域の輪	おいもを愛する会	広島県呉市
文化伝承「邦楽 箏」児童ふれあいサロン	邦楽グループ 城友会	広島県豊田郡
ミニ障害児子どもまつり	こすもすの会	広島県広島市
エコ工作教室	広島環境サポーターネットワーク	広島県広島市
学童工作教室の拡大と環境美化及び、地域資源を活かしたふれあいイベントによる地域社会の絆づくり	晴海町・青社会	広島県呉市
子どもたちの『心の居場所』-地域や社会全体で支えるために-	NPO法人 ひろしまチャイルドライン子どもステーション	広島県広島市
沙羅の森チャリティコンサート	特定非営利活動法人.朋 広島	広島県広島市
ART PARTY	ART PARTY実行委員会	広島県広島市
寺子屋子ども野外体験塾	世羅町子ども会育成連合会	広島県世羅郡
ベビー&チャイルドサポートセンターの基盤事業～子どもたちの心の声に耳を傾けよう～	特定非営利活動法人 日本タッチ・コミュニケーション協会	広島県呉市
子供達による「竹炭作りから販売」までの実習体験	大道山竹炭工房	広島県東広島市
重度・重複障害児スポーツ・レクリエーション活動教室	重度・重複障害児スポーツ活動サークル「はなまるキッズ」支援チーム	広島県広島市
『蘇れ 母なる海 松永湾 パート2 広げよう環境保護の輪』	環境市民ネットまつなが	広島県福山市
峰田小夢配達人プロジェクト推進事業(絵本作成)	峰田小夢配達人プロジェクト庄原市実行委員会	広島県庄原市
神石高原町を舞台にした絵本作り	夢配達人プロジェクト神石高原町実行委員会	広島県神石郡
安地区まちづくりプランプロジェクトおとなりさん	安地区まちづくりプランプロジェクト「おとなりさん」	広島県広島市
ダウン症青少年ソーシャルスキルアップ支援事業～カオチームのコーヒャーサービス研修と実践～	(財)日本ダウン症協会広島支部 えんぜるふいっしゅ	広島県広島市
あふれる自然の中での子供たちの体験、経験を通じ親子、家族同士の連帯を深める会	Men's なかよし	広島県広島市
ものづくり体験・科学教室「なんでもかがく塾」	日本宇宙少年団ミザール分団	山口県周南市
ふるさと「歴史と食」の伝承	遊巣の里	山口県岩国市
神原校区ふるさと歴史マップ作成事業	神原校区子ども委員会	山口県宇部市
わくわく土曜塾	長門市中央公民館事業企画運営委員会「わくわく土曜塾」担当	山口県長門市
美祢市子連ジュニアリーダーズクラブ於福支部事業	美祢市子連ジュニアリーダーズクラブ於福支部	山口県美祢市
わくわく科学SUMMERフェスティバル2008	岩国科学をたのしむ会	山口県岩国市
踊りをとおし過疎地域の子供達に夢と機会をあたえる事業	長州とことん総踊り実行委員会	山口県萩市
子ども読書まつり	子ども読書活動推進ネットワーク・防府	山口県防府市
男声合唱を通じての青少年健全育成	山口大学メンネルコールOB会	山口県防府市
合 計		30件 800万円

第23回(2007年度)

活動名	団体名	地域
全ての子どもたちの健全育成事業親子のふれ合いを支援する事業	NPO法人 ぶれいすくーるめいび	広島県尾道市
障害者の地域貢献活動	特定非営利活動法人 ぼでーる	広島県呉市
こわれたおもちゃの修理をとおして青少年の健全育成と環境保全事業	ひろしまおもちゃ病院	広島県広島市
おいもでつなげる地域の輪	おいもを愛する会	広島県呉市
カンオンの森活用塾	カンオンの森活用塾	広島県広島市
里山における食育事業「こもぎプロジェクト」	特定非営利活動法人 ひろしま自然学校	広島県広島市
こどもに大口望遠鏡を操作させ、満天の星空を身近に体験させる	弘法山こども天文台	広島県三次市
学生ボランティアセンター立ち上げ検討プロジェクト	学生ボランティアセンター立ち上げ検討委員会	広島県広島市
ジュニア・フェスティバル2007	ジュニア・フェスティバル2007実行委員会	広島県府中市
エコまつり「環ッハッハinよしじま」	エコまつり「環ッハッハinよしじま」実行委員会	広島県広島市
レクリエーション及び野外活動に関する技術の普及並びに指導者ボランティアの育成、技術向上を目的とした研修講座	施設ボランティアサークル「くわがた」	広島県広島市
地域と学校との連帯型体験学習<なのはな学習>	特定非営利活動法人アイエヌイーおおあさ	広島県山県郡
『蘇れ 母なる海 松永湾』	環境市民ネットまつなが	広島県福山市
干潟の総合学習	特定非営利活動法人 瀬戸内海振興会	広島県広島市
リサイクル工作教室	広島環境サポーターネットワーク	広島県広島市
子どもたちの祈り 原爆創作劇～I PRAY～	特定非営利活動法人 HPS国際ボランティア	広島県広島市
東区障害児のためのサマースクール	東区障害児のためのサマースクール	広島県広島市
青少年の教育・指導(主に主催事業のプログラム企画、運営、実施)	広島野外活動クラブ	広島県広島市
亀崎支援タヤけ会(留守児童の見守り活動)	亀崎支援タヤけ会	広島県広島市
友楽タイムおいでよわせだっ子	早稲田学区青少年健全育成連絡協議会	広島県広島市
あふれる自然の中での子供たちの体験、経験を通じ親子、家族同士の連帯を深める会	Men's なかよし	広島県広島市
なんでもかがく塾(モノ作り科学教室)	日本宇宙少年団ミザール分団	山口県周南市
地域通貨を活用したボランティア活動	日見区地域通貨推進協議会	山口県大島郡
ふれあいの森なんでも工房 年間事業費	ふれあいの森なんでも工房	山口県周南市
わくわく土曜塾	長門市中央公民館事業企画運営委員会「わくわく土曜塾」担当	山口県長門市
わくわく科学SUMMERフェスティバル	岩国科学をたのしむ会	山口県岩国市
アスベルガー症候群・高機能自閉症児・者の夏期療育キャンプ	山口県アスベの会	山口県下関市
築窯ワークショップ	特定非営利活動法人子どもととも山口県文化を育てる会「心をかたち」子どもたちの未来・実行委員会	山口県山口市
見島伝統文化子ども教室	見島伝統文化子ども教室実行委員会	山口県萩市
合 計		29件 750万円

市民活動支援

1. 募集・応募・選出状況

第25回(2009年度)青少年健全育成市民活動支援を以下により実施しました。

(1) 募集

募集要項記載概要は、以下のとおりです。

- | | |
|--------------|--|
| (a) 対象活動 | 青少年の健全育成を目的とした、民間の非営利活動
自然とのふれあい ボランティア育成 地域連帯
エコ 国際交流・協力 科学体験・ものづくり |
| (b) 募集地域 | 広島県、山口県 |
| (c) 支援期間 | 単年度支援 2009年4月1日～2010年3月31日の1年間 |
| (d) 支援金総額 | 800万円 |
| (e) 1件当り支援金額 | 10万円～50万円 |
| (f) 募集期間 | 2008年10月15日～2009年1月15日 |

(2) 応募状況

締切日までに97件の応募を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

- | | | |
|---------|-------------|----------|
| (a) 地域別 | ・広島県 | 35件(36%) |
| | ・広島市 | 36件(37%) |
| | ・山口県 | 26件(27%) |
| (b) 分野別 | ・自然とのふれあい | 20件(21%) |
| | ・ボランティア育成 | 14件(15%) |
| | ・地域連帯 | 39件(40%) |
| | ・エコ | 4件(4%) |
| | ・国際交流・協力 | 8件(8%) |
| | ・科学体験・ものづくり | 12件(12%) |

(3) 支援対象の選出

選考委員会(2009年2月27日開催)での審議の結果、支援候補として、総計32件800万円が選出され、2009年3月26日開催の第77回評議員会および第91回理事会において正式に承認決定されました。

(4) 支援金贈呈書の贈呈

- ・広島県 2009年4月15日、マツダ株式会社本社で贈呈式・交流会を開催。広島県内の25団体に対して、支援金贈呈書を贈りました。
- ・山口県 2009年4月23日、マツダ株式会社防府工場で贈呈式・交流会を開催。山口県内の7団体に対して、支援金贈呈書を贈りました。

2. 支援件数の推移

本年度を含む3年間の支援件数、内訳は次のとおりです

(応募件数および支援件数)

	本年度(第25回) 2009年度	第24回 2008年度	第23回 2007年度
応募件数 (件)	97	79	74
支援件数 (件)	32	30	29
支援比率 (%)	33	30	39
支援金総額 (万円)	800	800	750

(地域別状況)

地 域	2009年度		2008年度		2007年度	
	応募件数	支援件数	応募件数	支援件数	応募件数	支援件数
広島県 (件)	35	13	26	10	20	7
広島市 (件)	36	12	35	11	34	14
山口県 (件)	26	7	18	9	20	8
合計 (件)	97	32	79	30	74	29

(分野別状況)

地 域	2009年度		2008年度		2007年度	
	応募件数	支援件数	応募件数	支援件数	応募件数	支援件数
自然とのふれあい (件)	20	4	11	1	12	3
ボランティア育成 (件)	14	5	14	7	11	6
地域連帯 (件)	39	16	35	14	35	14
エコ (件)	4	2	9	4	6	3
国際交流・協力 (件)	8	1	6	1	2	0
科学体験・ものづくり (件)	12	4	4	3	8	3
合計 (件)	97	32	79	30	74	29

役員・評議員名簿

平成22年(2010年)7月1日 現在

財団役職	名 前	役 職
理 事 長	山 内 孝	マツダ株式会社代表取締役会長兼社長
専務理事	黒 沢 幸 治	マツダ株式会社常務執行役員
常務理事	山 根 英 幸	財団法人マツダ財団事務局長
理 事	上 田 宗 岡	上田宗箇流家元
	大 田 哲 哉	広島商工会議所会頭
	片 山 義 弘	広島大学名誉教授
	川 本 一 之	株式会社中国新聞社代表取締役社長
	櫛 本 功	広島大学名誉教授
	山根 八洲男	広島大学副学長
	山 野 正 登	有人宇宙システム株式会社相談役
監 事	友 田 民 義	公認会計士
	藤 本 哲 也	マツダ株式会社財務本部副本部長
評 議 員	赤 岡 功	県立広島大学長
	浅 原 利 正	広島大学長
	大 杉 節	広島大学宇宙科学センター特任教授
	佐 藤 次 郎	財団法人日本語教育振興協会理事長
	竹 林 守	マツダ株式会社相談役
	堀 憲 次	山口大学工学部長
	山 木 勝 治	マツダ株式会社代表取締役副社長執行役員
	山 中 昭 司	広島大学大学院工学研究院特任教授
	山 西 正 道	広島大学名誉教授
	吉 田 総 仁	広島大学大学院工学研究院長
	渡 辺 一 秀	マツダ株式会社相談役

(五十音順・敬称略)

NOTE:

この概要はマツダ財団が2009年度に支援を行った
「青少年を育むための市民活動」32件の活動のひとつです。

お問い合わせは、マツダ財団事務局へ☒

住所：〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地3-1 マツダ(株)内
TEL：(082)285-4611
FAX：(082)285-4612
E-mail：mzaidan@mazda.co.jp
ホームページ：<http://mzaidan@mazda.co.jp>

マツダ財団市民活動支援とは

次代を担うこどもたちが、いろいろなことに興味を持ち、多くの感動を得ることのできる生活体験の機会の提供や地域社会づくりのための諸活動を支援。

対 象	青少年の健全育成を目的とした、主に民間の非営利活動。☒ 自然とのふれあい、ボランティア育成、地域連帯、エコ、国際交流・協力、科学体験・ものづくりの各場面で、特に、子供たちの参画度の高い活動、創意工夫を育てる活動や、地域でのさまざまな支えあい活動、学校5日制を活用するプログラム、学校と地域が連携する活動を支援。 青少年の範囲は概ね6歳～24歳。
募集期間	毎年10月中旬～翌年1月中旬 活動は翌年4月以降に実施されるもの (4月1日より即実行できるよう、年度開始前に募集し、支援を決定します。)
募集地域	広島県、山口県
支援金額	1件当たり 10万円～50万円